

# G空間EXPO2019 開催報告書

---

令和2年3月  
G空間EXPO運営協議会



# 目次

---

1. 開催概要	1
2. オープニングセレモニー	7
3. メッセージゾーン	9
4. 地理空間情報フォーラム	13
5. Geoアクティビティコンテスト	25
6. 講演・シンポジウム	37
7. その他（広報等）	51
付録1 アンケート結果（来場者、出展者）	59
付録2 開催実績	69

---





# 1. 開催概要

---

主催：G空間EXPO運営協議会

# 開催概要

---

## ■ 開催概要

1. 名称 G空間EXPO2019 Geospatial EXPO2018 Japan
2. 期間 2019年(令和元年)11月28日(木)～30日(土) 10:00～17:00
3. 会場 日本科学未来館（東京都江東区青海2-3-6）
4. 対象 児童・生徒から社会人まで幅広い層 / 入場料：無料
5. 主催 G空間EXPO運営協議会  
公益社団法人日本測量協会 一般社団法人全国測量設計業協会連合会  
一般社団法人日本測量機器工業会 公益財団法人日本測量調査技術協会  
一般財団法人衛星測位利用推進センター gコンテンツ流通推進協議会  
一般社団法人地理情報システム学会  
内閣官房 内閣府宇宙開発戦略推進事務局  
国土交通省国土政策局 国土交通省国土地理院  
国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構
6. 共催 一般社団法人東京臨海副都心まちづくり協議会
7. 後援 東京都港湾局
8. 協力 国立研究開発法人科学技術振興機構日本科学未来館
9. 公式webサイト <http://www.g-expo.jp/>
10. 入場者数 15,513人  
(第1日：4,752人、第2日：4,543人、第3日：6,218人)

# 統一テーマ・タイトルロゴ

## ■統一テーマ

### 「地理空間情報科学で未来をつくる」

G空間EXPO開催の根幹的な意義を示す標語。2013(平成25)年度より掲揚。

## ■年次テーマ

### 「G空間×みちびき＝輝ける令和の未来へ」

統一テーマを踏まえつつ社会の流れや移り変わりに沿う時宜的な標語。一年度限り。

## ■タイトルロゴ



## ■キービジュアル



illustration by **ねこいた**  
© Crypton Future Media, INC. [www.piapro.net](http://www.piapro.net)

# 開催構成

---

## ■ G空間EXPOメッセージゾーン

主催：G空間EXPO運営協議会（構成員による共催）

場所：日本科学未来館 1階 シンボルゾーン

G空間EXPOの導入部として、G空間社会における産業の創出・高度化、防災・減災及びバリアフリーへの寄与に関するイメージをパネルで展示。

## ■ 地理空間情報フォーラム

主催：測量関係 4 団体

公益社団法人日本測量協会、一般社団法人全国測量設計業協会連合会、

一般社団法人日本測量機器工業会、公益財団法人日本測量調査技術協会

場所：日本科学未来館 1階 企画展示ゾーン及びメインステージ ほか

G空間社会を支える最先端の技術・サービス等を、企業、団体、機関等による展示や体験イベント等を通じ紹介。測量船（「海洋」）を一般公開。

## ■ Geoアクティビティコンテスト

主催：国土交通省国土地理院

場所：日本科学未来館 1階 企画展示ゾーン及びメインステージ

公募で選ばれた先進的な取組、独創的なアイデア、新たなサービス、ユニークな製品、画期的な技術等について展示やプレゼンテーションを実施。

## ■ 講演・シンポジウム

主催：一般財団法人衛星測位利用推進センター

場所：日本科学未来館 7階 未来館ホール・イノベーションホール, コンファレンスルーム

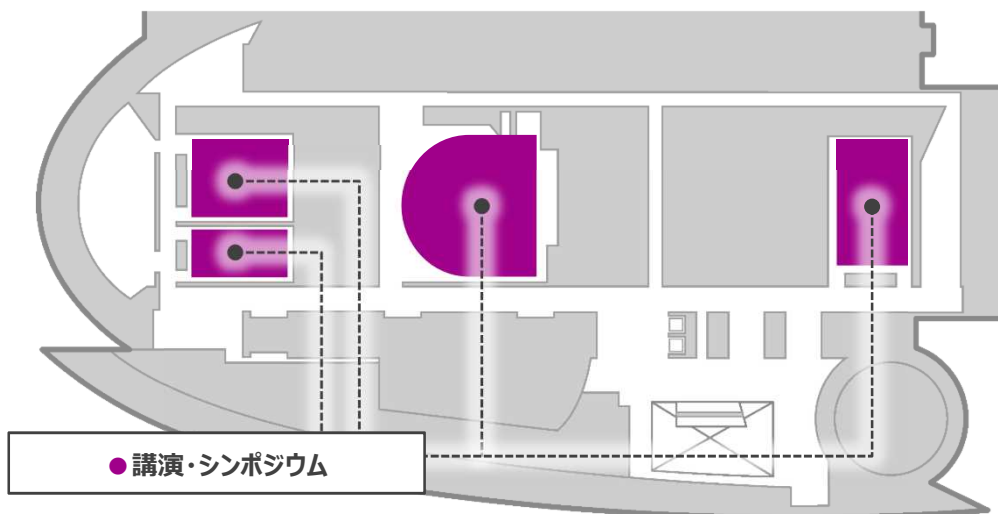
G空間社会を支える「みちびき」の最新情報、関連する研究の成果、製品化の情報、業界や新技術の動向について講演・シンポジウム形式で発信。

# 開催構成（会場平面図）

## 1階



## 7階



---

---

## 2. 開会式（オープニングセレモニー）

主催：G空間EXPO運営協議会

# 開会式（オープニングセレモニー）

日時 令和元年11月28日（木） 10:00～10:20

会場 日本科学未来館 1Fメインステージ

内容 主催者・来賓挨拶（10:00～）  
テープカット（10:15～）

## 【挨拶】

国土交通省	青木 一彦 国土交通副大臣 (深澤 典宏政策統括官による代読)
日本科学未来館	毛利 衛 館長
(公社) 日本測量協会	清水 英範 会長
(一財) 衛星測位利用推進センター	岡部 篤行 理事長

## 【テープカット】

日本科学未来館	毛利 衛 館長
国土交通省国土地理院	黒川 純一良 院長
国土交通省	深澤 典宏 政策統括官
(公社) 日本測量協会	清水 英範 会長
(一財) 衛星測位利用推進センター	岡部 篤行 理事長
(一社) 地理情報システム学会	小口 高 会長
内閣府宇宙開発戦略推進事務局	松尾 剛彦 局長





## 3. メッセージゾーン

---

主催：G空間EXPO運営協議会

# メッセージゾーン

## ■ パネル \* 説明はP.4参照。

ようこそ  
Geo spatial  
G空間EXPO 2019

**G空間×みちびき  
=輝ける令和の未来へ**

昨年11月には、我が国の準天頂衛星「みちびき」の4機運用が開始されセンチメートル単位の衛星測位環境が整いました  
これらの活用により令和時代のG空間社会の実現を目指します

地図や衛星測位などから得られる地理空間情報  
「いつ・どこで・何が・どのように」  
こうした情報がわたしたちの安全を守り  
くらしを豊かに・便利にします  
地理空間情報はイノベーションの源泉です  
G空間EXPOで  
未来を見て、触れて  
ぜひ楽しく学んでいってください

G空間×未来

「いつ・どこ」といった地理空間情報や我が国の準天頂衛星「みちびき」を高度に活用した「G空間社会」の実現により、我が国が目指すSociety5.0を支える様々なサービス・産業の創出・高度化が期待されています。

例えば、人手不足が深刻化する農作業や建設作業の作業効率・生産性向上のためのロボットトラクター、自動車の自動運転、ドローンを活用した物流サービスなど、新たな技術の社会実装に向けて、官民が連携した取組が進められています。

さらに、最近注目を集めているAI（人工知能）との関わりはより一層深くなり、私たちが想像していなかったようなサービスや製品が登場し、未来の生活がより身近なものになっていくことでしょう。

様々な社会課題の解決、そして、ビジネスチャンスの限りない可能性と広がりをもった「G空間社会」は、すぐそこまで来ているのです。



G空間×防災・減災

「G空間社会」は、近年激甚化している災害から、人々のいのち、安心して安全な生活を守るために、平常時・災害時を問わず最大限に貢献していくことが大いに期待されています。

例えば、普段からの災害リスクの把握と、災害時の迅速な避難。誰もが簡単にハザードマップや過去の災害履歴を重ねるなど、地域の災害リスクを我がこととして知ること、いざという時、個人や地域が災害の状況に応じて、いのちを守る防災行動を的確にとることができるようになるでしょう。

被害状況の迅速な把握・共有。衛星画像やドローンの活用はもとより、SNSを通じた市民からの投稿情報（投稿場所や写真、コメント）により、浸水や土砂災害の発生地域を推定することが可能となります。様々な防災情報を共有する情報システムを通じて、被害状況をいち早く把握・共有することで、被害の軽減や早期の応急・復旧活動に役立つでしょう。



G空間×バリアフリー

私たちの暮らしに浸透したスマートフォン。電車やバスの運行情報やナビゲーションなどのアプリにも「位置情報」が活用され、私たちの生活を便利にしています。

障害者の方が街歩きを楽しめるように、外国人が初めて訪れた街でもスムーズに移動できるように、また、GPSの届かない地下での待ち合わせでも迷わないように、高精度な屋内外ナビゲーションの普及が進められています。

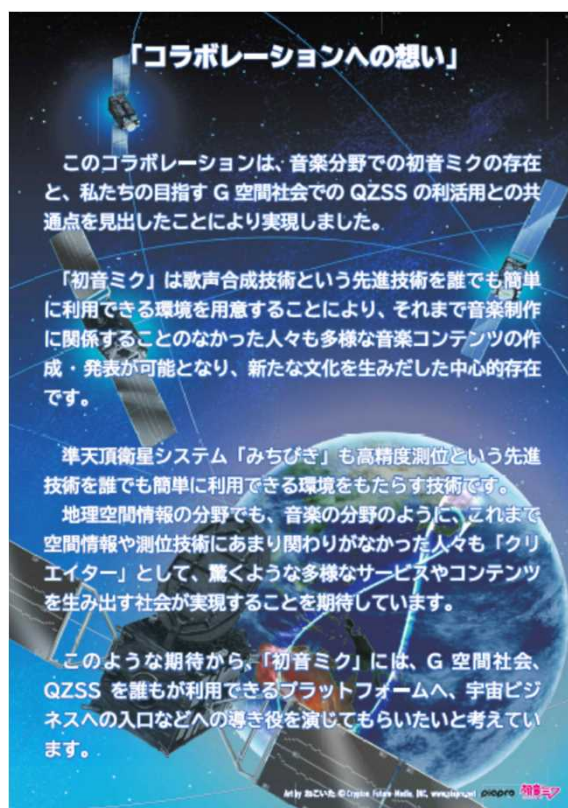
地図や位置などのG空間情報を用いたAR（拡張現実）アプリの導入も進み、地域の魅力を発信するだけでなく、その地に訪れた人々を楽しませるためのコミュニケーションツールとして活用されています。

「G空間社会」は、障害者、高齢者や小さなお子さん、外国人などに手を差し伸べ、誰もが安心して暮らし、行き交うことができる様々なサービスを提供することで、地域に憩いをもたらし、誰もが心豊かに楽しむことができるようになるでしょう。





# メッセージゾーン



(展示状況)





## 4. 地理空間情報フォーラム

---

主催： 公益社団法人 日本測量協会  
一般社団法人 全国測量設計業協会連合会  
一般社団法人 日本測量機器工業会  
公益財団法人 日本測量調査技術協会

# 実施概要

## ■ 地理空間情報フォーラム

企業・団体・機関等の展示・体験イベント等により、日本のG空間社会を支える最先端の技術やサービス等を紹介しました。各出展者による高度で専門的な展示を通じ、G空間社会についてもっと知りたいといった一般の方々や、情報収集を目的としたビジネス層のニーズに対応しました。

**名称** 地理空間情報フォーラム2019

**会期** 2019年11月28日（木）～30日（土）

**会場** 日本科学未来館 1階企画展示ゾーン a・b および屋外

**主催** 公益社団法人 日本測量協会  
一般社団法人 全国測量設計業協会連合会  
一般社団法人 日本測量機器工業会  
公益財団法人 日本測量調査技術協会

**展示会** G空間社会（地理空間情報高度活用社会）に関わる基盤技術、応用技術、機器やシステム、ソフトウェア、データ、器具・材料、サービスが、産学官連携により一堂に会して技術展示を実施しました。

### ベンダーフォーラム

展示だけでは分かりにくい技術や製品・サービスの詳しい内容を、専門分野の来場者に説明していただく機会として実施しました。

### 測量コンテスト

日本科学未来館Geoコスモスと、任意に取り付けた月球儀との中心間距離を測定し、その精度や測量におけるアイデアを、事前エントリーした15チームで競いました。

### 体験イベント

地理空間情報フォーラム出展者が各出展ブースや屋外にて、その技術やサービスを実際に来場者が触れて体験できる催しとして実施しました。



# 実施報告

## ■ 展示

### 1. アジア航測株式会社

#### 地理空間情報システムのご紹介

アジア航測は、測量や地図作成技術を基盤とし、空間情報の収集・解析から活用方法の提案、実施プラン策定まで、一貫した技術サービスを提供することで、安全・安心で豊かな社会を支えています。

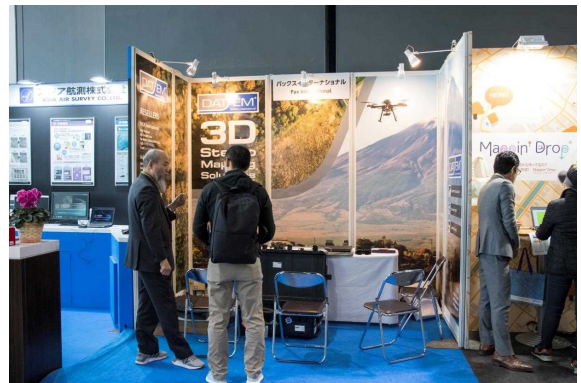
災害時や平常時など様々な場面に適した機材を用いて取得した空間情報を表示、解析するシステム、災害時に各自治体の効率的な情報集約と迅速な意思決定を支援する災害情報システム、等を紹介しました。



### 2. Pax International

#### 世界158カ国で重宝されています

DAT/EM System International社はデジタル航空写真、地上写真、衛星写真等を使用して地図作成、オルソ画像、MMS地図作成等の多目的な用途達成の為にSummit Evolution, Landscape, Dgn Dwg Capture, MapEditor, Ortho+Mosaic, Contour Creator, UAS,等の開発製品を紹介しました。



### 3. 株式会社パスコ

#### 未来社会構築に向けたパスコの空間情報技術

空間情報技術は、社会の様々な分野で活用を紹介しました。

- 1) 国産光学衛星 (ALOS-3) 2020年度打ち上げ予定！これからの衛星活用
- 2) 3次元測量と3次元データマネジメント技術
- 3) 地図教育への活用



### 4. 国際航業株式会社

#### 持続可能な社会形成に資する空間情報技術 ～国際航業の計測・解析・利活用技術～

地球環境の保全、持続可能な社会の形成に資する計測・解析・利活用技術を中心に紹介しました。空から森林の状態を診断するサービス「診ま森」、GISで地理総合を楽しく学ぶ「GeoEduケーション for SDGs」、地球環境データを球体ディスプレイに投影してSDGsの考え方を広めるツールである小型インタラクティブ地球儀「SPHERE(スフィア)」を展示しました。



# 実施報告

## ■ 展示

### 5. インフォメーションバンクコンソーシアム

#### インフォメーションバンクコンソーシアムの活動紹介

「情報銀行」はパーソナル情報を取り扱うHUBとなり、安全かつ安心してパーソナル情報を管理し活用するための試みです。データポータビリティを通じて、大量に生成されたパーソナル情報を個人が自ら統合し利用をコントロールする可能性が拓けてきました。統合されたパーソナル情報は大きな価値を持つ半面、社会の様々なところに大きな影響を与えます。コンソーシアムで検討している「情報銀行」の適切な利用の仕組み、それを支えるトラスト形成の仕組み、法制度面での課題などを紹介しました。



### 6. ESRIジャパン株式会社

#### ArcGISプラットフォーム (イメージ&3D)

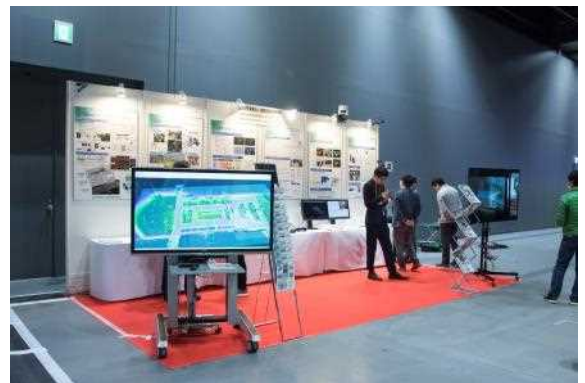
GISプラットフォーム「ArcGIS」が提供する様々な機能の中から、「イメージ (画像)」と「3D」をテーマとして、活用例を紹介しました。



### 7. 国立研究開発法人 産業技術総合研究所

#### G空間情報解析プラットフォーム

産総研で研究を進めている「人やモビリティ、ロボットの『移動』」に着目したG空間に関する研究開発事例を紹介しました。また自律移動ロボットが会場内を動き回りました。



### 8. リーグルジャパン株式会社

#### UAVレーザースキャナ、地上型レーザースキャナ

##### UAVレーザースキャナ (ULS)

・高密度・高精細データを取得するハイエンドモデルタイプ、小型・軽量タイプなどULS各種展示しました。

##### 地上型レーザースキャナ (TLS)

・レーザー計測と画像撮影を同時に行うことができるTLSの最新の計測手法を紹介しました。





# 実施報告

## ■ 展示

### 9. 内閣府宇宙開発戦略推進事務局 ／準天頂衛星システムサービス株式会社

#### 準天頂衛星システム「みちびき」

2018年11月1日にサービスを開始した準天頂衛星システム「みちびき」について、提供しているサービスの概要や、各分野で拡がり続ける利活用の最新状況について、紹介しました。



### 10. 株式会社フォーラムエイト

#### VR Design Studio UC-win/Road ～ 国土強靱化を支援するVRプラットフォーム ～



### 11. 株式会社 快適空間 F C

無人航空機搭載型レーザ計測装置及び無人ポート搭載型マルチビーム計測装置  
20分間のフライトで400m×400mの広域を3次元計測することができる「無人航空機搭載型レーザ計測システム」、簡単な機装と短時間のキャリブレーションで高精度な計測を可能な「無人ポート搭載型マルチビーム計測システム」を展示しました。



### 12. ICC2019組織委員会/みちびき実装プロジェクト /地図みらいコンソーシアム

#### 地域社会の発展的未來へ貢献するG空間情報ソリューション～ICC2019東京から地図・空間情報の未來へ～

2019年7月、39年振りに日本で開催された国際地図学会議(ICC2019)の成果を出発点に、地図や衛星測位をはじめとする空間情報の技術が描く未來のG空間社会の展望と地域社会へのソリューションを分かりやすくお見せしました。



# 実施報告

## ■ 展示

### 13. 高精度測位社会プロジェクト事務局 (国土交通省 / (株)NTTデータ)

#### 国土交通省 高精度測位社会プロジェクト

国土交通省は、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とし、訪日外国人・高齢者・障害者を含む誰もが、屋内・屋外を問わずシームレスに目的地へ円滑に移動できる社会の実現を目指して、「高精度測位社会プロジェクト」について展示しました。



### 14. 公益財団法人 日本測量調査技術協会

#### 測技協の40年と測量調査技術

日本における地理空間情報の計測や利活用に関わる技術の発展とともに歩んできました。本出展では、現在の当協会の公益目的事業の紹介と、40年間の測量調査技術の変遷をもとに、それらの技術の基準類やマニュアル類への反映、実用化と社会との関わり、そして当協会がどのように関与してきたか等をパネル等で紹介しました。



### 15. 総務省統計局／独立行政法人 統計センター

#### 政府統計の総合窓口 (e-Stat) の機能紹介

各府省等が公表する統計関係の情報を集約し、統計データの検索、地図表記、ダウンロード等の機能を備えた「政府統計の総合窓口 (e-Stat)」を運用しています。本展示ブースでは、統計データを地図上に「見える化」する機能、レポート作成、地図ソフトに用いる統計データや境界データのダウンロード機能等を備えた「地図で見る統計 (jSTAT MAP)」を中心にデモンストレーションを交えて紹介しました。



### 16. 国土交通省 国土地理院

#### 高精度測位社会を支える国土地理院の取組

自動運転やスマート農業など、様々な分野で新しいサービスの実現を可能にする高精度測位。国土地理院では、高精度測位を支える共通基盤を重要インフラとして整備し、誰もが安心して高精度測位と地理空間情報を利用したさまざまなサービスを楽しむことができる「G空間社会」の推進に取り組んでいます。本フォーラムでは、国土地理院の高精度測位を支える取組について、パネルを中心に紹介しました。





# 実施報告

## ■ 展示

### 17. 公益社団法人 日本測量協会

**UAVフライトシミュレータによる操作体験**  
UAVの操作体験をしていただきました。



### 18. 株式会社オキシテック

**可搬ボート型マルチビーム測深器 CARPHINVの紹介**  
CARPHINVの特徴は以下の通りです。

- ・可搬性に優れた船体で1人での測量を実現
- ・浅いところから深いところまでマルチビームでの測量
- ・自立航行・自動回帰機能搭載
- ・誰もが測量できるイージーシステム
- ・陸上から操作できる安全性
- ・オール一体型により艀装レスで作業時間の短縮
- ・容易にバッテリー交換可能な船体で長時間測量可能
- ・i-Construction対応



### 19. 朝日航洋株式会社

**オープンソースソフトウェアQGISと3次元空間情報サービスgood-3D**

朝日航洋では、近年急速に普及している誰もが気軽に利用できるオープンソースソフトウェアの地理情報システムQGISとその付帯サービス、東京23区エリアを対象に2018年3月に航空写真撮影・レーザ計測したデータを紹介しました。



### 20. G空間情報センター

**G空間情報センター**

産官学の様々な機関が保有する地理空間情報を円滑に流通し、社会的な価値を生み出すことを支援する機関です。2016年11月に運用を開始し、登録されたデータファイルは3万件以上、登録組織数は150件を超えました。(2019年9月時点) 今回、G空間情報センターの保有する様々な地理空間情報について、最新のトレンドやデータの活用方法、その他G空間情報センターの最近の取組みを紹介しました。



# 実施報告

## ■ 展示

### 21. 一般社団法人 日本測量機器工業会

#### 拡大する測量機器・システムの活用

測量機器・システムは、測量・建設の分野で幅広く活用されていますが、更に先端の測量機器・システム(ドローン計測システムや3Dレーザースキャナー等)も加えて、i-Construction など土木・建設工事や、農業分野での生産性、プロセスの効率化に貢献し、また社会インフラの構築・メンテナンス、多発する災害復旧においても活用が期待されます。こうした測量機器・システムの活用の拡大について紹介しました。



### 22. 近代測量150年記念事業推進会議

近代測量150年 – 測量の歩みを知り、未来へつなぐ –



### 23. 「測量の日」実行委員会

「測量の日」のPR・クイズコーナー



### 24. 公益社団法人 日本測量協会

#### 日本測量協会の業務紹介

日本測量協会及び測量技術センターの業務について、パネルとスライド画像を用いて紹介しました。また、日本測量者連盟（JFS）の活動について、パネルとビデオ映像を用いて紹介しました。



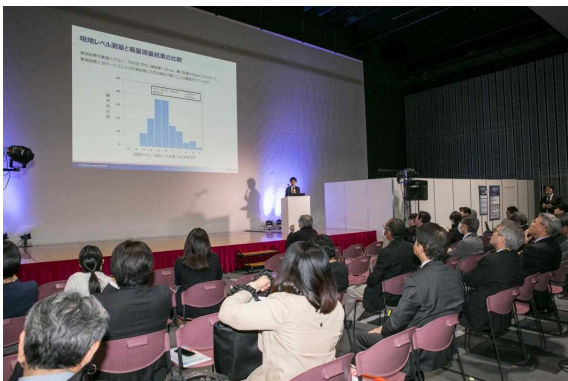
# 実施報告

## ■ベンダーフォーラム

G空間EXPO2019メインステージプログラムの中で開催しました。登壇者は、地理空間情報フォーラム2019出展者から募り、G空間EXPOが掲げる、地理空間情報高度活用社会の実現に向けた地理空間情報と衛星測位の利活用を推進するというコンセプトのもと、各者の視点で講演を行いました。

日時： 2019年11月28日（木） 11：30～16：30  
場所： G空間EXPO2019 メインステージ

時間	ご講演者様にてご対応	聴講者数
11：30～12：00	<b>(株)快適空間FC</b> マルチプラットフォームLiDARシステムによる3次元計測の効率化	28
13：00～13：30	<b>(株)フォーラムエイト</b> VR Design Studio UC-win/Road 国土強靱化を支援するVRプラットフォームのご紹介	39
13：45～14：15	<b>国土交通省 国土地理院</b> 高精度測位社会を支える国土地理院の取り組み	31
14：30～15：00	<b>リーグルジャパン(株)</b> レーザースキャナーによる3次元計測の最前線	33
15：15～15：45	<b>インフォメーションバンクコンソーシアム</b> 目指すべき本当の情報銀行の姿 —これまでの議論を踏まえて—	21
16：00～16：30	<b>(株)パスコ</b> 拡大する衛星活用～宇宙からの視点が空間情報ビジネスに革命をもたらす～	28





# 実施報告

## ■ 測量コンテスト

本年度で第12回目を数えた測量コンテスト。1チーム3名構成で、測量1時間・報告書1時間という時間制限のもと、開催しました。今年は15チーム参加していただきました。

日時： 2019年11月28日（木）～30日（土）  
 （表彰式：2019年11月30日（土）16時30分～16時50分）  
 場所： 日本科学未来館シンボルゾーン

日にち	グループ名	学校/会社	部門
11/28 14:00	アイアン9 2 1	東京農業大学	自作
11/29 14:00	JALconda 中央工A	高知工科大学 中央工学校	自作 精密
11/30 10:00	シビルクラブAチーム	京都市立京都工学院高等学校	精密
	シビルクラブBチーム	京都市立京都工学院高等学校	精密
	シビルクラブCチーム	京都市立京都工学院高等学校	精密
11/30 11:00	Good AIMs	長岡工業高等専門学校	精密
	中央工B	中央工学校	精密
	夜も測量「team ks」	高知県立高知工業高等学校定時制	精密
11/30 12:00	Civil Engineers	長岡工業高等専門学校	自作
	夜も測量「team T T」	高知県立高知工業高等学校定時制	自作
	中央工C	中央工学校	精密
11/30 13:00	空間情報工学研究室	木更津工業高等専門学校	自作
	群馬県立吾妻中央高等学校	群馬県立吾妻中央高等学校	精密
	環境工学研究部		
	中央工D	中央工学校	自作

受賞チーム	チーム名	学校/会社名	参加部門
総合優勝	中央工C	中央工学校	精密
敢闘賞	夜も測量「team T T」	高知県立高知工業高等学校定時制	自作
特別賞	群馬県立吾妻中央高等学校 環境工学研究部	群馬県立吾妻中央高等学校	精密
アイデア賞	該当なし	—	—

敢闘賞



夜も測量「team T T」

特別賞



群馬県立吾妻中央高等学校  
環境工学研究部

総合優勝



中央工C

# 実施報告

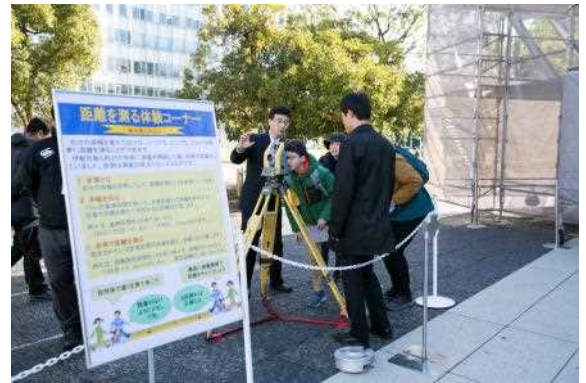
## ■ 体験イベント

### 距離を測る体験コーナー

#### 公益社団法人 日本測量協会

事前に定めた区間で、参加者が歩測と光波測距儀（TS）により距離測定を行うことで、測量を身近に感じていただくコーナーです。参加者は、自分の1歩当りの歩幅と歩数から距離を求め、その区間の距離をTSで正確に測定、歩測で求めた距離とTSで求めた距離を比較し、その誤差が小さい場合は、「歩測の達人」の称号を授与しました。

	体験者数
11/28(木)	雨天中止
11/29(金)	90
11/30(土)	160
合計	250



### UAVフライトシミュレータによる操作体験

#### 公益社団法人 日本測量協会

シミュレータソフトを使って、風景や、UAVも忠実に再現し、多くの方にお楽しみいただけるUAVの操作体験をしていただきました。



### 測量船「海洋」一般公開

#### 海上保安庁

海底地形、海底地質構造の調査及び海流・潮流など各種の調査活動を目的とした中型の多目的測量船で、海洋測量、海洋観測及び沿岸調査を任務としている「海洋」を一般公開しました。

日時：2019年11月30日（土） 10時～16時

場所：台場官庁船専用岸壁

協力：海上保安庁

見学者：181名



# 実施報告

## ■ 広報活動

1. 日本測量協会メールマガジン（10月～11月）
2. 月刊「測量」広告（2019年9月号～11月号）
3. G空間EXPO/地理空間情報フォーラム2019 開催記者発表

1. 日本測量協会メールマガジン（10月～11月）  
配信対象： 日本測量協会全会員宛  
配信日： 2019.10.9 G空間EXPO開催/シンポジウム告知  
2019.10.25 G空間EXPO開催/シンポジウム告知  
2019.11.12 G空間EXPO開催/シンポジウム告知
2. 月刊「測量」広告（2019年9月号～11月号；各約13,000部）  
掲載号：

2019年9月号表2対向から3p



2019年10月号表2対向から5p



2019年11月号表2対向から5p



3. 記者発表

投げ込み先：建設関係業界紙5社

（日刊建設工業新聞社/日刊建設通信新聞社/日刊建設産業新聞社  
日本工業経済新聞社/建通新聞社）



## 5. Geoアクティビティコンテスト

---

主催：国土交通省 国土地理院

# 実施概要

## ■ Geoアクティビティコンテスト概要

G空間情報に関する先進的な取組、独創的なアイデア、ユニークな製品、画期的な技術等について、地方公共団体、教育機関、NPO法人、民間企業等による展示やプレゼンテーションの機会を提供し、関係者間の交流を促進しました。展示やプレゼンテーションを行うプレゼンターは一般公募し、選考の上決定しました。プレゼンターには、会場においてアイデアや製品等の展示やプレゼンテーションを行っていただきました。

また、プレゼンテーションについては審査委員による審査を行い、優秀な作品については表彰を行いました。

名 称 Geoアクティビティコンテスト

開催期間 令和元年11月28日（木）29日（金）30日（土） 10:00～17:00  
（28日：展示 / 29日：展示・プレゼンテーション / 30日：展示・表彰式）

会 場 展示：1階 企画展示ゾーンb  
プレゼンテーション：1階 企画展示ゾーンb（メインステージ）  
表彰式：1階 企画展示ゾーンb（メインステージ）

## プレゼン・展示内容

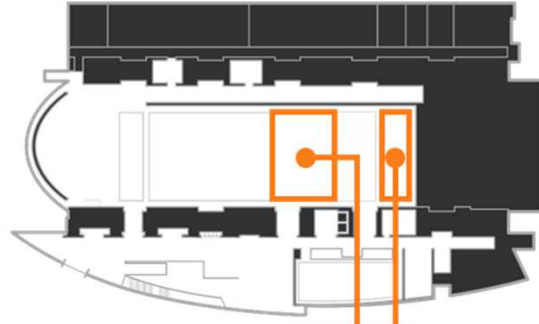
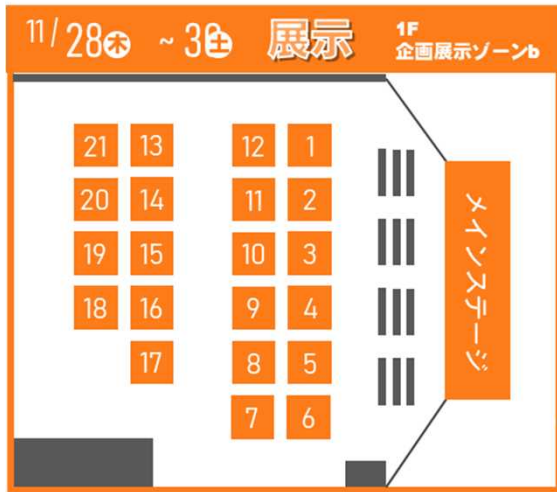
G空間情報を活用したアプリ、システム、機器、端末、サービス、技術、地図成果、研究成果、活用事例等を対象（既存のサービス、製品や、完成途中のものやアイデア段階のものも含む）

## 審査委員一覧 ※順不同、敬称略

委員長	関根 智子	日本大学 文理学部地理学科教授
委員	石川 初	慶応義塾大学大学院 政策・メディア研究科教授
	山本 佳世子	電気通信大学大学院 情報理工学研究科教授
	伊藤 香織	東京理科大学 理工学部建築学科教授
	土居原 健	アジア航測株式会社 社会基盤システム開発センターシニアフェロー
	坂下 哲也	一般財団法人 日本情報経済社会推進協会常務理事
	片岡 義明	フリーランスライター
	大場 亨	千葉県市川市 市民部次長
	吉田 泰己	経済産業省商務情報政策局 総務課情報プロジェクト室長補佐
	三橋 浩志	文部科学省初等中等教育局教科書調査官
事務局		国土交通省 国土地理院企画部地理空間情報企画室

# 実施概要

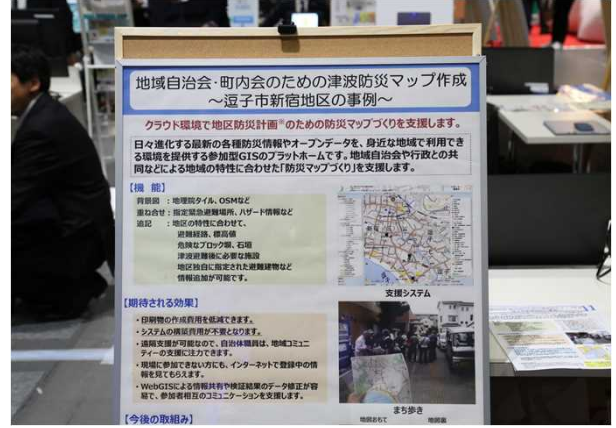
## ■ Geoアクティビティコンテスト展示小間及びプレゼンテーション時間割



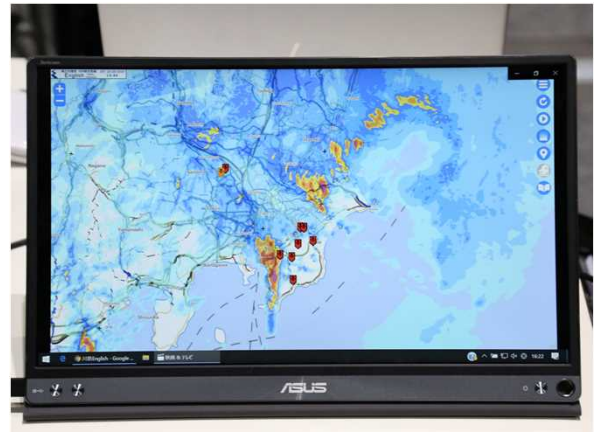
11/29(金) プレゼンテーション		1F メインステージ
	10:15 開会挨拶	国土地理院 企画部長
午前の部 (10:20~12:00)		
1	10:20 遠隔地支援による津波防災マップ作成 ～逗子市新宿地区の事例～	GIS大縮尺空間データ官民共有化推進協議会 支援グループ (代表) 松村一保
2	10:30 豪雨時のあなたの近くの川の水位がわかる 「川の防災情報」英語版	一般財団法人 河川情報センター
3	10:40 災害時の倉敷市真備地区での地理空間情報活用と中国地域への展開	一般社団法人 データクレイドル
4	10:50 「GISで小学生を笑顔に」プロジェクト "地域を知るのは楽しい"をGISで	坂井市教育委員会 北岡 武
5	11:00 ソウハツする遊び場としてのVIRTUAL SHIZUOKA	静岡県 交通基盤部 建設技術企画課 杉本直也
6	11:10 京都市オープンデータポータルにおける地理空間情報の活用	京都市
7	11:20 ARIA: シミュレーション連携で実現するリアルタイム被害予測	名古屋大学/情報通信研究機構/北陸先端科学技術大学院大学 (代表) 廣井 慧
8	11:30 言葉の壁がない観光ナビゲーションシステム	東京都立産業技術研究センター 阿部真也 電気通信大学 佐々木諒
9	11:40 沖縄島中南部1948年地形復元 ～失われた亜熱帯地形をバーチャル空間に～	GIS沖縄研究室 渡邊康志 沖縄大学名誉教授 上原富二男
10	11:50 北海道インバウンド旅行者の山岳安全に向けた 英語表記地形図(紙地図)の開発	HokkaidoWilds.org (代表) トムソン ロバート
午後の部① (13:00~13:50)		
11	13:00 地図アプリを使って市民の健康増進! "おおもた+Walking"	大牟田市 保健福祉部 福祉課 實本昌秀
12	13:10 富山市型スマートシティによるまちづくり	富山市 情報統計課 島崎忠司
13	13:20 レジリエンスマップで住民のレジリエンスアップ!	神奈川県寒川町 (町長) 木村俊雄、(拠点づくり部田端拠点づくり課長) 米山紀一
14	13:30 GISを活用した防災教育・コンテンツ製作と学生からの情報発信	大分大学減災・復興デザイン教育研究センター 江内谷万緒・大野桃菜(大分大学大学院)
15	13:40 誰もが自由に利用できる高等教育向け「GIS実習オープン教材」	GIS-OER WG (代表) 小口 高
午後の部② (14:10~15:10)		
16	14:10 ワンタッチでGIS! ～webGIS コンテンツ「SONIC」を利用した地理教育～	奈良大学文学部 近藤樹、田原和真
17	14:20 リアルな体験を可能にする災害訓練ARアプリ「CERD-AR」	大阪市立大学 都市防災教育研究センター 吉田 大介・三田村 宗樹 応用技術株式会社 林 博文・ケンバンティエン
18	14:30 まいたいタッチ	九州産業大学 芸術学部 佐野 彰
19	14:40 防災アプリ 「SHS災害.info2019」	宮崎県立佐土原高等学校 情報技術部
20	14:50 重信川の洪水被害調査 ～洪水前後の河川植生動態の可視化～	愛媛県立伊予農業高等学校 伊予農希少植物群保全プロジェクトチーム
21	15:00 UAVを用いた精密農業の実践～水田の悪魔vs.G空間情報の利活用～	愛媛大学農学部 村井麻里亜

# 出展の様子

## 1. 発表作品名 「遠隔地支援による津波防災マップ作成 ～逗子市新宿地区の事例～」 プレゼンター名 GIS大縮尺空間データ官民共有化推進協議会 支援グループ



## 2. 発表作品名 「豪雨時のあなたの近くの川の水位がわかる「川の防災情報」英語版」 プレゼンター名 一般財団法人 河川情報センター



## 3. 発表作品名 「災害時の倉敷市真備地区での地理空間情報活用と中国地域への展開」 プレゼンター名 一般社団法人データクレイドル



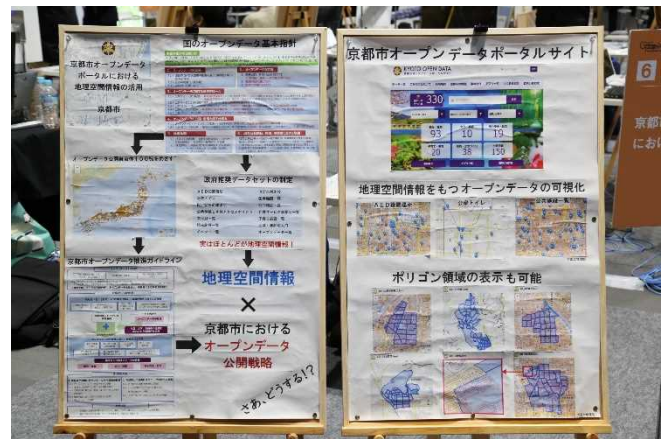


# 出展の様子

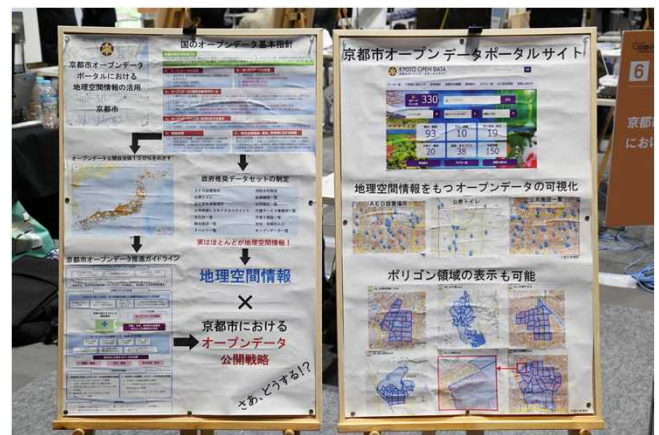
## 4. 発表作品名 「GISで小学生を笑顔に」プロジェクト”地域を知るのは楽しい”をGISで」 プレゼンター名 坂井市教育委員会 北岡武



## 5. 発表作品名 「ソウハツする遊び場としてのVIRTUAL SHIZUOKA」 プレゼンター名 静岡県交通基盤部建設技術企画課

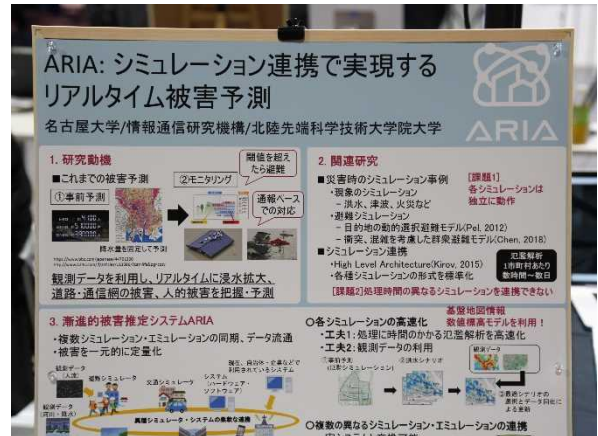


## 6. 発表作品名 「京都市オープンデータポータルにおける地理空間情報の活用」 プレゼンター名 京都市



# 出展の様子

## 7. 発表作品名 「ARIA: シミュレーション連携で実現するリアルタイム被害予測」 プレゼンター名 名古屋大学/情報通信研究機構/北陸先端科学技術大学院大学



## 8. 発表作品名 「言葉の壁がない観光ナビゲーションシステム」 プレゼンター名 東京都立産業技術研究センター 電気通信大学



## 9. 発表作品名 「沖縄島中南部1948年地形復元 -失われた亜熱帯地形をバーチャル空間に-」 プレゼンター名 GIS沖縄研究室 / 沖縄大学





# 出展の様子

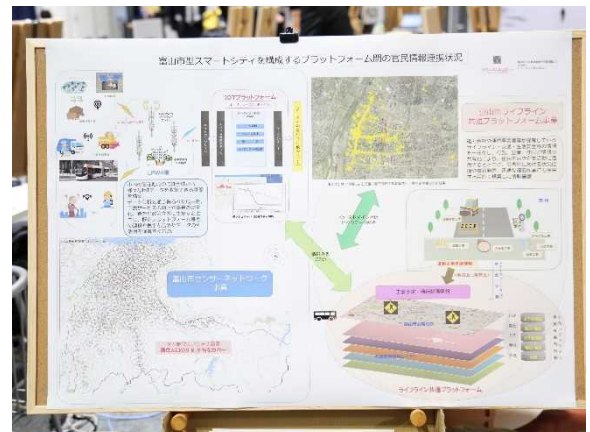
## 10. 発表作品名「北海道インバウンド旅行者の山岳安全に向けた英語表記地形図（紙地図）の開発」 プレゼンター名 Hokkaido Wilds.org



## 11. 発表作品名 「地図アプリを使って市民の健康増進！“おおむた+Walking”」 プレゼンター名 大牟田市保健福祉部 福祉課



## 12. 発表作品名 「富山市型スマートシティによるまちづくり」 プレゼンター名 富山市情報統計課



# 出展の様子

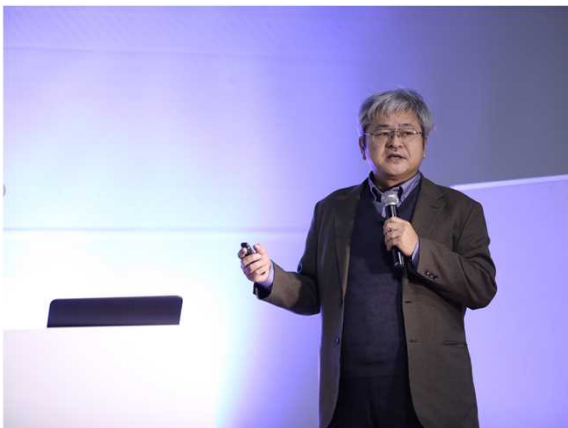
## 1 3. 発表作品名 「レジリエンスマップで住民のレジリエンスアップ！」

プレゼンター名 神奈川県寒川町



## 1 4. 発表作品名 「沖縄島中南部1948年地形復元 -失われた亜熱帯地形をバーチャル空間に-」

プレゼンター名 GIS沖縄研究室 / 沖縄大学



## 1 5. 発表作品名「誰もが自由に利用できる高等教育向け「GIS実習オープン教材」」

プレゼンター名 GIS-OER WG







# 出展の様子

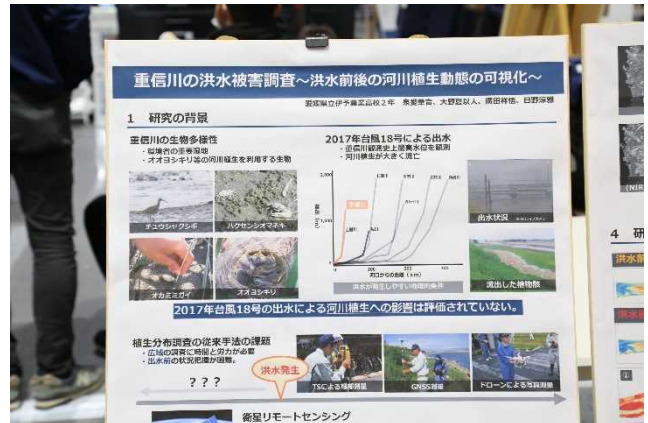
## 19. 発表作品名「防災アプリ「SHS災害.info2019」」

プレゼンター名 宮崎県立佐土原高等学校 情報技術部



## 20. 発表作品名 「重信川の洪水被害調査～洪水前後の河川植生動態の可視化～」

プレゼンター名 愛媛県立伊予農業高等学校 伊予農希少植物群保全プロジェクトチーム



## 21. 発表作品名 「UAVを用いた精密農業の実践～水田の悪魔vs. G空間情報の利活用～」

プレゼンター名 愛媛大学農学部



# 表彰式等

## ■ Geoコンダイジェスト

表彰式前に、前日行われたプレゼンテーションの概要を紹介しました。

日時：令和元年11月30日（土） 10:00～10:30

場所：1階 企画展示ゾーンb（メインステージ）

## ■ Geoアクティビティコンテスト 表彰式

出展された作品は審査委員による審査が行われ、優秀な作品について表彰を行いました。

日時：令和元年11月30日（土） 10:30～11:30

場所：1階 企画展示ゾーンb（メインステージ）

賞名	発表作品名	プレゼンター名
最優秀賞	まいたいタッチ	九州産業大学 芸術学部 佐野 彰
電子国土賞	遠隔地支援による津波防災マップ作成 ～逗子市新宿地区の事例～	GIS大縮尺空間データ官民共有化推進協議会 支援グループ (代表) 松村一保
	豪雨時のあなたの近くの川の水位がわかる 「川の防災情報」英語版	一般財団法人 河川情報センター
	北海道インバウンド旅行者の山岳安全に向けた 英語表記地形図（紙地図）の開発	HokkaidoWilds.org (代表) トムソン ロバート
測量新技術賞	ソウハツする遊び場としてのVIRTUAL SHIZUOKA	静岡県 交通基盤部 建設技術企画課 杉本 直也
地域貢献賞	災害時の倉敷市真備地区での地理空間情報活用と中国地域への展開	一般社団法人 データクレイドル
	地図アプリを使って市民の健康増進！ “おおむた + Walking”	大牟田市 保健福祉部 福祉課 實本昌秀
	GISを活用した防災教育・コンテンツ製作と学生からの情報発信	大分大学減災・復興デザイン教育研究センター 江内谷万緒・大野桃菜 (大分大学大学院)
防災減災賞	ARIA: シミュレーション連携で実現するリアルタイム被害予測	名古屋大学/情報通信研究機構/北陸先端科学技術大学院大学 (代表) 廣井 慧
	リアルな体験を可能にする災害訓練ARアプリ “CERD-AR”	大阪市立大学 都市防災教育研究センター 吉田 大介・三田村 宗樹 応用技術株式会社 林 博文・ゲンバンティエン
	防災アプリ「SHS災害.info2019」	宮崎県立佐土原高等学校 情報技術部
地理教育賞	誰もが自由に利用できる高等教育向け「GIS実習オープン教材」	GIS-OER WG (代表) 小口 高
	ワンタッチでGIS！ — webGIS コンテンツ『SONIC』を利用した地理教育—	奈良大学文学部 近藤樹、田原和真
データベース賞	沖縄島中南部1948年地形復元 —失われた亜熱帯地形をバーチャル空間に—	GIS沖縄研究室 渡邊康志 沖縄大学名誉教授 上原富二男
奨励賞	重信川の洪水被害調査 ～洪水前後の河川植生動態の可視化～	愛媛県立伊予農業高等学校 伊予農希少植物群保全プロジェクトチーム
来場者賞	北海道インバウンド旅行者の山岳安全に向けた 英語表記地形図（紙地図）の開発	HokkaidoWilds.org (代表) トムソン ロバート



# 会場の様子





## 6. 講演・シンポジウム

---

主催：G空間EXPO2019 運営協議会

（一般財団法人 衛星測位利用推進センター）

# 実施概要

## ■ G空間EXPO2019 講演・シンポジウム

名 称 G空間EXPO2019 講演・シンポジウム

開催期間 2019年11月28日（木）・29日（金）・30日（土）10：00～17：00

会 場 7階 未来館ホール／イノベーションホール／コンファレンスルーム天王星／  
コンファレンスルーム土星

令和2（2020）年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、現在、東京近郊の駅や空港では実用化に向けた様々な実証実験が行われており、訪日外国人や高齢者など誰もが円滑に目的地へと移動できる社会の実現に向けた取り組みが、活発に行われています。

このG空間社会を支える最新情報や研究成果発表、業界・技術動向などを発信することにより、高度な地理空間情報の世界を知っていただける場として、本年度の講演・シンポジウムは「地理空間情報科学で未来をつくる」を全体の統一テーマに、G空間社会への理解を深めるための講演・シンポジウムから、G空間社会を支える最新情報や研究成果発表、業界・技術動向の紹介、ワークショップなど、11の関係団体によりさまざまなプログラムが実施されました。

### 講演・シンポジウム テーマ例（抜粋）

- ・準天頂衛星「みちびき」最新状況・活用事例
- ・地図の歴史と3次元データの取り組みについて
- ・位置情報の技術やサービスの最新動向について
- ・気候変動と衛星地球観測
- ・地理院地図の最近の技術動向やパートナーからの事例紹介
- ・準天頂衛星システムを活用した取り組み
- ・国際地図学会議の振り返り ・G空間情報センターの取り組み
- ・モビリティの未来と空間情報 ・令和時代のツーリズム空間
- ・「地理総合」に向けたGIS活用の手引き

### 実施者アンケート結果（抜粋）

今回の講演・シンポジウムについて

総合的に満足・どちらかという満足…約9割

来年のG空間EXPO講演・シンポジウムも参加を検討したい… 約8割

# プログラム一覧

	11/28(木)	11/29(金)	11/30(土)
未来館ホール	<p>🕒 11:00~13:00 (10:30~受付)</p> <p><b>みちびき(準天頂衛星システム)講演会</b> 内閣府宇宙開発戦略推進事務局</p> <p>事前参加登録が必要です</p> <p>🕒 14:00~16:30 (13:30~受付)</p> <p><b>地理空間情報フォーラム1019 主催講演会</b> (公社)日本測量協会 / (一社)全国測量設計業協会連合会 / (一社)日本測量機器工業会 / (公社)日本測量調査技術協会</p> <p>事前参加登録が必要です</p>	<p>🕒 14:30~17:00 (14:00~受付)</p> <p><b>SPACシンポジウム2019</b> (一財)衛星測位利用推進センター</p> <p>事前参加登録が必要です</p>	
イノベーションホール	<p>🕒 14:00~16:30 (13:30~受付)</p> <p><b>gコンテンツワールド2019</b> gコンテンツ流通推進協議会 / (一社)日本情報経済社会推進協議会</p>	<p>🕒 13:30~17:30</p> <p><b>ICC 2019東京 国際地図学会議振り返る — 現代地図学の現状と課題 —</b> 国際地図学会議 2019東京会議事務局・日本地図学会</p>	<p>🕒 14:00~16:30 (13:30~受付)</p> <p><b>日本地理学会主催シンポジウム「令和時代のツーリズム空間 ~地域戦略のまなざし~」</b> (公社)日本地理学会</p>
コンファレンスルーム天王星	<p>🕒 14:00~16:30 (13:30~受付)</p> <p><b>気候変動と衛星地球観測</b> (一社)日本写真測量学会・(一社)日本リモートセンシング学会</p>	<p>🕒 14:30~17:00 (14:00~受付)</p> <p><b>G空間情報センター ユーザ会</b> G空間情報センター</p> <p>事前参加登録が必要です</p>	<p>🕒 13:30~17:30 (13:00~受付)</p> <p><b>「地理総合」に向けたGIS活用の手引き</b> (一社)地理情報システム学会・日本地図学会</p> <p>事前参加登録が必要です (先着30名)</p>
コンファレンスルーム土星	<p>🕒 10:30~17:20 (10:00~受付)</p> <p><b>第11回地理院地図パートナーネットワーク会議</b> 国土地理院</p> <p>事前参加登録が必要です</p>	<p>🕒 13:45~17:00 (13:35~受付)</p> <p><b>CSISシンポジウム2019 「モビリティの未来と空間情報」</b> 東京大学空間情報科学研究センター</p>	

\*各プログラムの詳細は<http://www.g-expo.jp/>の「講演・シンポジウム」ページをご覧ください。

# 実施報告 (01)

## ■ みちびき(準天頂衛星システム)講演会

実施者：内閣府宇宙開発戦略推進事務局



### ■ 主催者挨拶（内閣府宇宙開発戦略推進事務局 企画官 飯田洋）

飯田企画官は、みちびきに対応した様々な事業の拡大が進む現状を踏まえ、「みちびきの信号は今後、なくてはならない位置情報インフラとして未来永劫サービスを提供し続けることができると考えており、皆さまもさまざまなアイデアと実行力をぜひ発揮していただきたい」との期待を述べました。

### ■ 招待講演

#### ① 「みちびき利活用の取り組み」

山田 勲 氏（日本電気株式会社(NEC) 宇宙システム事業部 エキスパート）

同社が取り組みみちびき利活用事例として、消防車載端末にみちびきの災害・危機管理通報サービスを追加する案件や、送電設備の点検作業員に向けた歩行ナビゲーションの実証実験、さらには、港湾部におけるコンテナを運ぶトラックの車両管理、などの具体例を紹介し、「みちびきの高精度測位には大変期待しており、関連事業を広げていきたい。」と語りました。

#### ② 「みちびきの利活用 ～SDGs・第10次交通安全基本計画目標へのチャレンジ～」

笠原 一 氏（ジェネクスト株式会社 代表取締役）

同社が提供するサブメータ級測位補強サービスを利用した道路交通法の遵守状況可視化サービスを紹介し、サービスを導入したユーザーでは保険料が下がるなど、大きな成果が上がっていると述べました。

#### ③ 「みちびき測位システムを活用したリアルタイム海象モニタリング」

伊藤 喜代志 氏（株式会社環境シミュレーション研究所 取締役会長）

みちびき対応の海洋ブイによって得られる測位データを活用したリアルタイム海象(波浪・流れ)モニタリングを紹介しました。海洋ブイの小型化により大きなコストダウンが図れることで、従来よりも広い範囲で波高データを取得できるようになり、漁業や養殖などでの有効活用が期待できると語りました。

#### ④ 「みちびきを利用した排雪業務の高度化および実用化実証について」

岩根 えり子 氏（雪国よこて排雪作業軽減対策コンソーシアム代表/株式会社デジタル・ウント・メア 代表取締役社長）

村田 清和 氏（横手市役所 総務企画部長）

豪雪地帯である秋田県横手市における、除雪によって発生した雪を排出する“排雪”にみちびきを活用する事例として、道路脇の雪の堆積状況を写真と位置情報で記録して地図上に可視化する試みなどについて、実証実験の状況を紹介しました。

#### ⑤ 「準天頂衛星の海外実証」

西口 修 氏（株式会社日立ソリューションズ ビジネスコラボレーション本部 企画部 チーフアドバイザー）

日立グループの海外における実証実験を紹介しました。同社はみちびきが技術実証用として配信している高精度測位補正技術MADOCAに注目しており、関連ビジネスを展開していきたい、と述べました。



# 実施報告 (02)

## ■ 地理空間情報フォーラム主催講演会

【第一部】「地図」が語る我が国の測量・地図史秘話

【第二部】i-Constructionをはじめとした3次元データの取組みについて

実施者：地理空間情報フォーラム主催者

(公社) 日本測量協会 / (一社) 全国測量設計業協会連合会 /  
(一社) 日本測量機器工業会 / (公財) 日本測量調査技術協会

### 【第一部】「地図」が語る我が国の測量・地図史秘話

講演者：菊地 正浩 氏 (フリーライター、旅ジャーナリスト、日本地図学会会員)

近代測量150年の節目にあたり、戦後日本の国土復興にとって欠くことのできない測量・地図作成の歴史とその役割や重要性を顧みるとともに、地図原版と組織を守り、国家機関として、どのような道を辿ってきたか、沿革と変遷を紹介していただきました。

### 【第二部】i-Constructionをはじめとした3次元データの取組みについて

講演者：岡村 次郎 氏 (国土交通省大臣官房技術調査課長)

国土交通省は調査・測量から設計・施工・維持管理までのあらゆるプロセスでICT等を活用して建設現場の生産性向上を図るi-Constructionを推進しています。3次元データの活用などを進めることで、生産性が高く魅力的な新しい建設現場を創出する取組み等について紹介していただきました。



# 実施報告 (03)

## ■gコンテンツワールド2019

(実施者 JIPDEC (一般財団法人日本情報経済社会推進協会) / gコンテンツ流通推進協議会)

### テーマ：データ流通・活用と未来のサービスデザイン

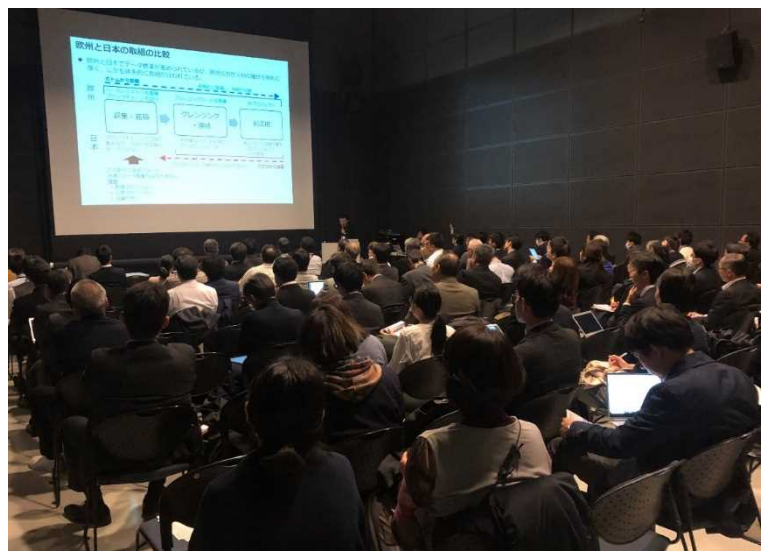
準天頂衛星打ち上げによる高精度測位やセンサーデータ、オープンデータなど、近年、多様で新たなデータ流通、データ利活用の技法が広がる中、位置情報ビジネス市場では、それらをどのように取り入れ活用させていくのがキーとなっています。gコンテンツワールド2019では、「データ流通・活用と未来のサービスデザイン」をテーマに、産官学の取り組みについて、最新動向と事例を交えてご紹介いたしました。

テーマについて「データ：公的データの流通・活用」「制度設計：ビジネスと制度のアーキテクチャー」「新技術と未来社会」の3つの側面から捉え、それぞれの切り口からご登壇者に事例等とともにご解説いただきました。

まず、公的データ等の流通・活用整備の例として、行政のデジタル化について新しいデジタル技術を活用しつつ戦略的に新たな付加価値を生み出すデジタルトランスフォーメーションのお取り組みについて、経済産業省情報プロジェクト室様よりを解説していただきました。

次にビジネスと制度のアーキテクチャーの解説として、まず、Society5.0時代のガバナンスモデルについて日本が提唱する“Data Free Flow with Trust (DFFT)” (信頼を確保することによって自由なデータ流通を拡大を目指すコンセプト) を交え、イノベーション加速のためには、ガバナンスも法規制のみならず、データや技術を用いて最適化・効率化していくことの重要性について経済産業省 情報経済課様より解説いただきました。次に個人情報保護委員会事務局様より、パーソナルデータの保護と利活用について個人情報保護法の見直しのご説明を交えてご説明いただきました。

つづいて未来の社会と新技術のテーマについて、キャッシュレス・ID化をテーマにブロックチェーン技術動向・導入事例の最前線を国内外の導入例を交えソラミツ株式会社 宮沢様よりご説明いただきました。また、汎用性やデータ活用を意識したレイヤー構造のアーキテクチャーとしての都市OS、という新しい構想から導きだされる未来の生活について、D4DR株式会社 藤元様から解説いただき、最後に、早期実現に向けて取組を進めているスーパーシティ構想についてその狙いと課題を内閣府 地方創生推進事務局様より解説いただきました。



# 実施報告 (04)

## ■【講演：気候変動適応と衛星地球観測】

実施者：日本写真測量学会、日本リモートセンシング学会

本シンポジウムを企画した背景として、世界的にも気候変動の及ぼす影響が顕在化していることがある。我が国においても近年の大規模な気象災害の頻発があり、気候変動の影響に早急に対応することが求められている。気候変動に関する政府間パネル(IPCC)の第5次評価報告書(AR5)では、温室効果ガスの人為的な排出が停止したとしても気候変動の影響が持続することを指摘し、温室効果ガスの排出の削減を図る「緩和」と気候変動に対応するための「適応」を気候変動のリスクに対応する相互補完的な戦略と位置付けている。また、2015年のパリ協定においても、「緩和」のための削減目標等の作成とともに「気候変動に対し、適応能力を拡充し、強靱性を強化し、脆弱性を減少させる世界全体の目標を設定する」ことが謳われている。これらを受け、2018年には、我が国でも気候変動適応法が公布され、気候変動適応計画が決定された。しかしながら、気候変動適応の個々の具体的な方法論についてはいまだ研究途上にあるものも多い。本シンポジウムは、以上の状況を確認するとともに、気候変動下の世界における今後の衛星地球観測のあり方について議論を深めることを目的としている。

### <プログラム>

#### 1. 基本情報

- (1) 「気候変動適応と環境省の取組み」 秋山奈々子（環境省 地球環境局総務課 気候変動適応室）
- (2) 「気候変動リスク分析に必要となる情報」 本郷尚（（株）三井物産戦略研究所 国際情報部）

#### 2. 各セクターでの取り組み事例

- (1) 「漁業の事例」 高橋文宏（（株）グリーン&ライフ・イノベーション 取締役・技術開発部長）
- (2) 「農業の事例」 石塚直樹（農業・食品産業技術総合研究機構 農業環境変動研究センター）
- (3) 「島しょ国における気候変動下での高潮・高波ハザードの推定」 福田徹（リモート・センシング技術センター）

#### 3. 次期観測計画

- (1) 「ひまわり及び後継静止気象衛星」 安藤昭芳（気象庁 観測部気象衛星課）
- (2) 「衛星地球観測ミッション公募と次世代ミッションの検討状況」 本多嘉明（千葉大学環境リモートセンシング研究センター）

#### 4. 総合討論

各講演の講演資料は、学会ホームページ（<http://www.jsprs.jp>）に掲載するので、参照いただきたい。議論をまとめると、まず気候変動適応におけるモデルの重要性が確認された。すなわち、気候モデルによる将来の気候の予測から各セクター、事業で必要とする情報を生成するモデルが必要となる。このモデルを介してのみ適応策の効果を予測し適応策を設計することができる。ここで衛星リモートセンシングが貢献すべきは、モデルに初期値を与えることはもちろん、



モデルの改善、高度化への利用がある。この観点で過去のデータの組織的アーカイブと観測の継続性が重要であることが指摘された。また、講演でも指摘されたように時間分解能、空間分解能の要求と観測性能とのミスマッチがあり、大きな課題であることも確認された。今後は、新たなセンサや解析手法の開発などに向け、議論と研究、開発を継続する必要があるとの認識で一致した。

（日本写真測量学会常務理事・対外協力委員会 福田徹）



# 実施報告 (05)

## ■第11回地理院地図パートナーネットワーク会議

### 実施者：国土地理院

「地理院地図パートナーネットワーク会議」は、国土地理院が提供するウェブ地図「地理院地図」(<https://maps.gsi.go.jp/>)の最新情報やGIS等を開発している企業等による地理院地図データ(地理院タイル)の利用事例などの紹介及び意見交換を通して、地理空間情報活用のオープンイノベーションを目指して、平成26年度から開催しているものです。

今回の会議は、G空間EXPO2019の講演・シンポジウムの1つとして開催し、当日85名の来場がありました。会議は午前の部と午後の部に分けて以下のとおり実施しました。

#### ■午前の部 防災・教育に役立つ地理院地図の機能やコンテンツの紹介

行政の防災対策の担当者や一般の方向けに、防災・教育等で役立つ地理院地図の使い方について、初歩的なところから説明・実習を行いました。参加者の皆様にも実際に地理院地図の操作を体感いただきました。

#### ■午後の部 国土地理院、地方公共団体及び教育機関からの情報提供並びに地理院地図パートナーからの地理院タイルの利用事例紹介

午後の部の技術者向けプログラムでは、国土地理院から地理院地図やベクトルタイルに関する最新情報を提供するとともに、静岡県の方澤氏から同県における三次元データの取組について、東京都立保谷高等学校の五十嵐氏から高校地理教育における地理院地図を活用した授業について紹介いただきました。また、パートナー6者(応用技術株式会社、OSGeo財団日本支部、北海道地図株式会社、産業技術総合研究所、GIS大縮尺空間データ官民共有化推進協議会・支援グループ、八田荘地球学研究所・職業能力開発総合大学校)から地理院タイルの活用事例を紹介いただきました。

前回に引き続き、インターネットでのライブ配信と、インターネットを通じた質疑受付を実施し、ライブ配信では約50名の方に視聴いただき、質疑応答も大変盛り上がりました。

当日の発表資料や会議の様子の動画は、地理院地図パートナーネットワークのウェブサイト(<https://maps.gsi.go.jp/pn/>)に掲載しております。



午前の部のデモの様子



会議の様子

(執筆者：国土地理院地理空間情報部情報普及課)



# 実施報告 (06)

## ■【SPACシンポジウム2018】

主催 一般財団法人衛星測位利用推進センター  
共催 一般社団法人日本経済団体連合会  
後援 内閣府宇宙開発戦略推進事務局

本シンポジウムでは2018年11月から本格運用が開始された準天頂衛星システム「みちびき」の利活用に係る最新のトピックスを紹介しました。来賓には自由民主党G空間社会実装委員長の新藤義孝衆議院議員がお越しになり挨拶をされ、また参加者は約200名と大変盛況でした。講演の概要を記載いたします。なお、講演資料は、SPAC HP (<http://www.eiseisokui.or.jp>) からダウンロードできますので、是非ご覧ください。

### 1. 基調講演：地理空間情報で拓く令和の未来

[黒川 純一良、国土交通省 国土地理院 院長]

最初の日本地図は、奈良時代の高僧「行基」が作ったといわれる「行基図」です。国家測量機関は、明治以来、技術の進歩や社会情勢にあわせて、わが国の位置情報インフラを整備してきました。高精度測位社会では、測位精度が上がるほど、様々なサービスや地図情報を矛盾なく安定利用するために、共通の基盤が必要不可欠です。国土地理院は、国家座標、地殻変動補正、標高の基準等の取組みで、誰もが安心して高精度測位サービスを利用できる環境を提供し、地理空間情報高度活用社会（G空間社会）の実現に貢献して参ります。

### 2. 招待講演：みちびきとセキュアなドローン社会の実現

[澤田 雅之 元.警察大学校警察情報通信研究センター所長]

ドローンと呼ばれる小型無人機は、急速に発達しており、「みちびき」の高精度測位技術がインフラとなり、「空の移動革命」と「空の産業革命」を担うことが期待されています。ドローンがテロに使われた場合の対策としては、今後の5Gを含めた技術革新により阻止が困難になります。このため、実際のドローン位置とドローンのID位置との“ズレ”を無くすことが識別のためには重要になり、これには「みちびき」の高精度測位の活用が強力な解決策となります。

### 3. 招待講演：高精度位置情報の活用による社会課題解決に向けて

[杉浦 克尚 (株) NTTドコモ ソリューション営業推進・建設ソリューション 担当課長]

社会や企業のデジタル変革を支える革新的な技術としては、IoT、5G、AIがあり、これらがデジタルな世界で融合することにより、新たな価値創出や社会的問題が解決されていくと考えています。ドコモは、電子基準点とドコモのアセット(固定局)との組み合わせによる高精度位置情報が取得できる環境を整備し、これを基に社会課題解決に貢献することを目指しています。

### 4. 招待講演：準天頂システムセンチメートル級測位補強サービス(CLAS)の現状と普及に向けた取組み

[廣川 類 三菱電機(株) 鎌倉製作所 宇宙総合システム部 次長]

みちびきは、2017年に3機の衛星の打上げに成功し、実用サービスを2018年11月1日から開始しています。この機能の一つであるCLASは、国内向けにcm精度の測位補強サービスを無償で提供しており、世界初のものです。さらにCLASのユーザからのフィードバックを得て、可用性向上、地図との整合性、補強衛星数を50%増加させる新方式の適用による性能向上等に取り組んで参ります。

### 5. 「みちびき」補強情報の利活用加速に向けたSPACの取組

[三神 泉 (一財) 衛星測位利用推進センター 専務理事]

SPACは、みちびきを核とした高精度測位サービスをあらゆる分野で、かつ地方にも広める活動をしています。具体的には、みちびきによる高精度測位受信体験デモ、初心者向教育、関連するツール開発等に取り組んでおり、QBICのアウトリーチ推進活動として実施しています。SPACは引き続き、皆様方と共に「みちびき」サービスの普及・浸透と早期の社会実装の一助として、更に貢献したいと考えていますので、今後ともよろしくお願いたします。



SPACシンポジウム2019の会場風景

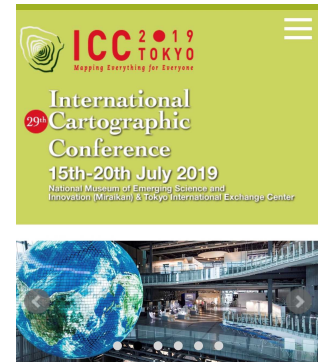
# 実施報告 (07)

## ■ 講演・シンポジウム

### ICC Tokyo (国際地図学会議) 報告

日本地図学会 ICC 2019 東京国際地図学会議を振り返る

— 現代地図学の現状と課題 —



地図に関する唯一の国際学術組織である国際地図学協会（ICA）の第29回国際地図学会議（International Cartographic Conference: ICC）東京大会および第17回国際地図学協会総会が、前回の1980年大会から39年ぶりに2019年7月15日から20日までの6日間にわたって、東京お台場の日本科学未来館および国際交流館（平成プラザ）を中心に開催された。

本年は伊能忠敬の没後201年、明治時代に近代測量が始まって150年という節目の記念すべき年でもあり、地図を巡る技術の発展や社会との対応を考える良い機会となった。このことは我が国に限った状況ではなく国際的にも共有している問題課題と思われたことから大会招致が図られた。

参加国数は75カ国におよび、全体で約1000名の参加登録があり、その7割以上が外国人という本格的な国際会議となった。

会議は、“Mapping Everything for Everyone”という標語のもとに、44のテーマにわたって約650件の研究発表、および基調講演4件、特別セッション2件が行われた。また、展示として国際地図展に30カ国から約400点、国際子供地図展に33カ国から約200点の出展があり、また、企業展示には22の企業・団体・グループからブース出展が得られた。更に、日本地図学会の定期大会を併催し、また我が国の測量・地図産業界を中心に結成された“地図コンソーシアム”による企画展「日本の地図の過去・現在・未来」も開かれた。

開会式には秋篠宮皇嗣殿下・同妃殿下のご臨席を仰ぎ御言葉を頂戴したほか、国際地図学協会会長、日本学術会議会長、および組織委員会メンバーによる歓迎の挨拶、そして国土地理院院長、内閣府科学技術担当大臣、内閣総理大臣（メッセージのみ）からも祝辞があった。また、会期中に国土地理院、海洋情報部、国会図書館などへの技術巡検が生まれ、大会後にはポストコングレスツアーが実施された。このように国内の個別の学会では得られない国際色豊かな大規模で多彩な会議となり、俯瞰的な知識獲得の場が大会という共通空間を通して提供された。参加者や出席国の代表者からは大いなる会議の成功と稀に見る成果ある国際会議になったと多くの賛辞が寄せられた。

本報告会では本ICC東京国際地図学会議組織委員会の太田 弘の「映像で振り返る ICC 2019 Tokyo」

（30分のビデオ）の上映に続いて、森田 喬（同組織委員会委員長）、古橋大地 氏（同幹事）、河合 豊明（品川女子学院教諭 日本地図学会企画委員会委員）、瀬戸 寿一（同 幹事）、卜部 勝彦（日本地図学会 常任委員長）ほか本 ICC 参加者・出席者からの感想・会議における感想が報告された。

（太田 弘 日本地図学会 常任委員）

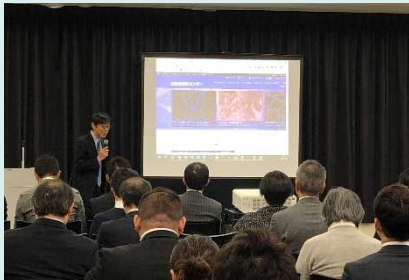


## ■【G空間情報センター ユーザ会】

### 実施者：G空間情報センター

11月29日（金）G空間EXPO2019におきまして、G空間情報センターユーザ会を開催いたしました。当日は70名を超える多くのユーザの皆様にご参加いただきました。誠にありがとうございました。

#### ● 基調講演



会の冒頭では、G空間情報センターセンター長の柴崎亮介より、ご挨拶いたしました。また、G空間情報センターセンターの運営母体であるAIGID代表理事の関本義秀より、G空間情報センターの運営3周年の節目にあたり、本年度G空間情報センターが取り組んできたこととして、受注者によるオンライン電子納品システムMyCityConstructionや国土交通データプラットフォームについてご紹介いたしました。

#### ● 事例紹介：スマートシティ社会の実現に資するG空間情報

本年度のユーザ会では、「スマートシティ社会の実現に資するG空間情報」をテーマに、産官学の皆様から事例紹介をいただきました。国が目指すスマートシティの方針、県や民間企業での3次元データの活用、市民の生活の質向上のためのシステム・アプリケーションなど、様々な立場から先進的な事例をご発表いただきました。



#### ● 全体ディスカッション



最後に、事例紹介でご登壇いただいた皆様と会場のユーザの皆様にご参加いただき、事例紹介に関する質疑応答、およびスマートシティ社会の実現に向けてG空間情報センターが果たすべき役割について全体ディスカッションを行いました。

様々な立場のご意見を頂戴し、大変有意義な場となりました。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。

本会によりユーザの皆様が一堂に会することができ、G空間情報センターの活用について議論を深める良い機会となりました。

なお、講演資料一式はG空間情報センターHPよりご確認いただけます。ぜひご参照ください。



## ■CSISシンポジウム2019 「モビリティの未来と空間情報」 東京大学 空間情報科学研究センター

### 1. 開催概要

東京大学空間情報科学研究センター、及び、国内外で行われている空間情報科学研究の理論と応用の多くの事例を通じて、今後の研究の在り方について広く論ずるシンポジウムです。地理学、経済学、情報科学、統計学、疫学、社会学など、様々な研究領域を母体とする空間情報科学は、情報科学技術の目覚ましい発展に伴い、この20年の間、急速な進展を見ました。特に、近年の情報科学技術分野における革新は、空間情報取得・解析・表現の可能性を大きく広げ、空間情報科学研究が様々な学問領域に展開されていくことが期待されています。

本シンポジウムは、2018年7月に発足した東京大学モビリティ・イノベーション連携研究機構の協賛のもと東京大学空間情報科学研究センターが主催して開催いたしました。自動運転やダイナミックマップなどモビリティの変革を支える技術の話題提供5件とMaaS(Mobility as a Service)等の実装によってもたらされる社会像についてのパネルディスカッションでの議論を通じて、空間情報科学研究の現状に至る経緯とその背景を振り返りつつ、今後のさらなる発展の方向性を探りました。シンポジウムには、大学をはじめとして、行政機関、道路・交通、自動車、測量、建設コンサルタント、通信等に関連する企業など、モビリティに関わる幅広い分野の90名を超える参加者があり、モビリティの未来と空間情報に関する議論を多くの皆様と共有することができました。

### 2. 発表・討議

話題提供は、産学官を代表する5名の研究者・実務者が、「モビリティの未来と空間情報（東京大学 講師 日下部貴彦 氏）」、「ダイナミックマップの現状と今後の期待（（株）三菱総合研究所 中條覚 氏）」、「次世代モビリティに関する取り組み（東京大学 准教授 鹿野島秀行）」、「本格的な社会実装を目指す自動運転、MaaSの交通オペレーター視点での現状（（株）みちのりホールディングス 浅井康太 氏）」、「自動運転時代の交通システム理論：展望と課題（東京大学 助教 瀬尾亨 氏）」の題目で行いました。ITS(Intelligent Transport System)から近年の自動運転技術やMaaSの現状を振り返るとともに、ダイナミックマップをはじめとした産官学の基盤となる空間情報、自動運転社会での連携やシステム設計の重要性を確認しました。パネルディスカッションでは、次世代モビリティのインテグレーションに向けた産学官の課題について議論し、データ連携をはじめとした標準化・オープン化など協調領域の重要性、制度設計やユーザーズに合ったサービス設計など、産官学それぞれの立場でのリーダーシップの重要性などが議論されました。

日下部貴彦 東京大学 空間情報科学研究センター



# 実施報告（10）

## ■ 令和時代のツーリズム空間 ——地域戦略のまなざし—— 実施者:(公社)日本地理学会

シンポジウム・プログラムと講演者

趣旨説明 有馬貴之氏（横浜市立大学准教授）

講演1 渡邊瑛季氏（宇都宮共和大学専任講師）：

フィールドワークによる観光地域研究における空間情報の収集とその課題

講演2 新名阿津子氏（伊豆半島ジオパーク推進協議会専任専門員）：

ジオパークにおける空間情報の統合とその可視化

講演3 杉本興運氏（首都大学東京助教）：

観光地域分析における大規模な空間情報の利活用と可能性

パネルディスカッション

司会 有馬貴之氏（横浜市立大学准教授）

30年余りの平成の世は、ポストバブル時代であり、その中でデジタル化、ネットワーク化、グローバル化が進展した時代であった。経済体制が変化し、技術基盤が変化する中で、社会のあり方も大きく変わった。ツーリズムと総称される観光客の行動や観光関連業のあり方も、高度な情報化の進展によって根本的なところから大きく変わったもののひとつであり、地域における観光へのまなざしも、また、健康をめぐる動きの中で地域自体も、今では昭和とはまったく異なる様相を見せている。「令和」への改元を迎え、この間の変化を踏まえた新たな視点から、経済的にも、社会的影響においても重要性を増してきたツーリズムを経済的にも社会的にも地域にどう活かしていくのか、地域おこし、地域振興を目指す戦略の中で捉え直していく議論の場を設けたのが、今回のシンポジウムであった。

登壇者の渡邊氏は、地理学において伝統的なものであるフィールドワークの手法が、新たな技術を活用した新しい研究手法との組み合わせにおいても有効であることを研究事例から紹介された。新名氏は、伊豆半島ジオパークにおいて、自然から人文にまたがる諸々の空間情報を可視化して観光資源化していく実践について、具体的な取り組みの事例を踏まえて報告された。杉本氏は、ビッグデータの解析など、新たな技術を踏まえた観光現象に関する地域分析手法の切り口を多様なスケールで紹介しながら、その意義や今後の可能性を論じた。最後には、この企画立案の中心を担い、司会進行にあたった有馬氏も交え、また、フロアからのコメントも交えながら、活発な討論をおこなった。

山田晴通（日本地理学会企画専門委員長・東京経済大学）

# 実施報告（11）

## ■「地理総合」に向けたGIS活用の手引き

### 一般社団法人地理情報システム学会 / 日本地図学会

地理総合が必修科目になるにあたり、指導のための最初の一步を提示し、実際にGISを利用した地理に触れてみることを目的として、ハンズオンセッションを開催しました。最初に、電気通信大学の山本佳世子教授が開会のあいさつと趣旨説明を行い、その後4人の講師による具体的なGISを使った指導が行われました。

最初に、朝日航洋株式会社 G空間研究所所長の相伴真吾講師の指導のもと、「QGISを使って避難所マップを作ってみよう」ということで、オープンソースソフトウェアの地理情報システムQGISとオープンデータを使って自分の住んでいるまちの避難所マップの作成に取り組みました。避難所の位置と町丁毎の人口総数をもつポリゴンを重ね合わせて表示したり、避難所のヒートマップを作成したりすることで、発災時の避難所の充足状況等を考察するためのマップを作成しました。

2番目に富山大学教授の大西宏治講師の指導のもと、「統計地図をつくって日本をみつめなおしてみよう」ということで、都道府県別や市町村別人口の将来推計のデータを統計地図にして地域の将来を考える授業を行うことを目標に、インターネットからデータを集め、統計地図作成に特化したGISを使って、日本の統計地図を作成する実習を行いました。

3番目に熊本大学准教授の米島万有子講師の指導のもと、「野生動物の目撃データを利用した土地利用の特性把握」ということで、野生動物の事例としてクマの目撃された場所の情報をもとにGISデータを作成し、現存植生図や地形図などと重ね合わせ、クマの出没場所の特徴について分析する手順について学びました。

最後に東京大学助教の秋山祐樹講師の指導のもと、「Mobmapを用いた移動体データの可視化」ということで、GISでは土地や建物といった動かないモノだけではなく人や車といった「動くモノ」（移動体）を取り扱うため、移動体を可視化・分析するためのGISである「Mobmap」の基礎的な使い方について学ぶと共に、移動体を表現するためのデータ構成や、移動体データの入手方法などについて学びました。

これまで地理情報システム学会と日本地図学会はG空間EXPOで毎年シンポジウムを行ってきましたが、今回初めてハンズオンセッションに取り組みました。事前登録の段階で定員を越える受講希望者がありました。受講者は総勢35名で、この内の学校教員の参加者は3名で、他に学生・院生8名、その他民間企業の方と行政機関の方が24名など、産官学をまたいだ多岐にわたる領域の受講者がありました。ハンズオンセッションの中で、受講者からは活発な質疑応答があり、「地理総合」に向けた学校教員のGISを活用した授業展開だけでなく、あらゆる職業分野でのGISの活用シーンが展開できるような内容だったと思われます。今回初めての取り組みにも関わらず、両学会関係者の協力により、この企画が成功裏に終わりました。受講者のGISスキルの向上に何らかの貢献が出来たことに喜びを感じると共に、関係者の皆様の御協力に感謝致します。（地理情報システム学会企画担当理事 小荒井衛）



## 7. 広報

---

G空間EXPO運営協議会

# 広報（ロゴ、キービジュアルの制定）

## ■ ロゴ



## ■ キービジュアル

- ・初音ミク
- ・みちびき



illustration by ねこいた  
© Crypton Future Media, INC. www.piapro.net



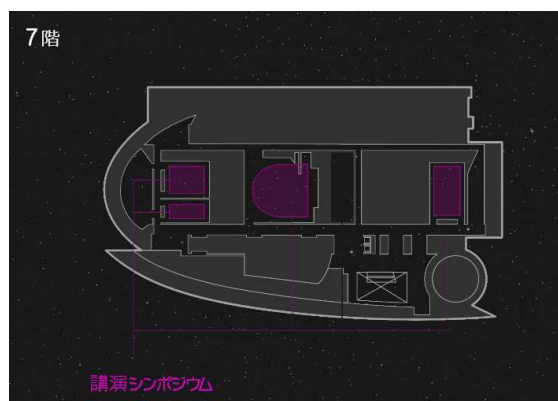
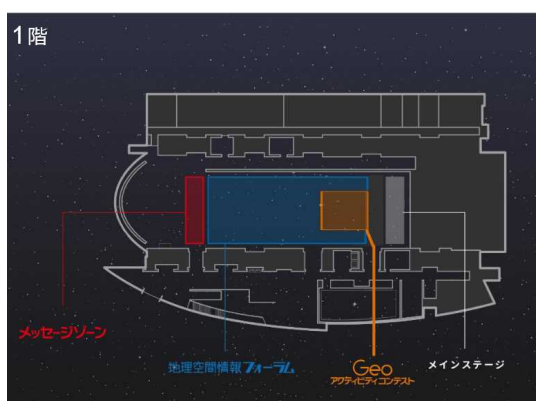
# 広報（Webサイトの制作、公開）

## ■ G空間EXPO公式Webサイトの制作、公開

公式Webサイトを制作、公開した（URL= <http://www.g-expo.jp/>）。



トップページ上部に、各プログラムへのリンクを配置。



場内のゾーン見取図を掲載。

お問い合わせ	ダウンロード
G空間EXPO2019全般に関するお問合せ先	G空間EXPO運営協議会事務局 国土交通省国土政策局国土情報課 TEL : 03-5253-8353 国土交通省国土地理院企画部地理空間情報企画室 TEL : 029-864-6257 E-mail : info (=) g-expo.jp 【 (=) を@に変換してください。】
地理空間情報フォーラムに関するお問合せ先	地理空間情報フォーラム事務局 <公益社団法人日本測量協会 (内)> TEL : 03-5684-3356 FAX : 03-3816-6870 E-mail : g-expo (=) jsurvey.jp 【 (=) を@に変換してください。】
Geoアクティビティコンテストに関するお問合せ先	Geoアクティビティコンテスト事務局 <国土交通省 国土地理院企画部地理空間情報企画室内> TEL : 029-864-5959 E-mail : gsi-g-expo (=) gxb.mlit.go.jp 【 (=) を@に変換してください。】
講演・シンポジウムに関するお問合せ先	G空間EXPO2019 講演・シンポジウム運営事務局 〒112-0005 東京都文京区水道2-1-1 (株) 勁草書房コミュニケーション事業部 内 TEL : 03-3814-7112 FAX : 03-3814-6904 E-mail : gexpo2019 (=) keiso-comm.com 【 (=) を@に変換してください。】

プログラム別の問合せ先（電話、FAX、メールアドレス等）を一覧表示。

# 広報（ポスター、フライヤー(チラシ)の制作、配布）

## ■ポスター、フライヤー(チラシ)の制作、配布

ロゴ(「G空間EXPO」)、キービジュアル(初音ミク)、統一テーマ、年次テーマ、期間・場所、主催者等を配したポスター及びフライヤー(チラシ)を制作、適宜配布を行った。

フライヤーの裏面には、場内各ゾーン（メッセージゾーン、地理空間情報フォーラム、Geoアクティビティコンテスト及び講演・シンポジウム）の紹介、会場へのアクセス、場内見取図を掲載した。

・ポスター  
※A2判



・フライヤー  
※A4判



(表)

(裏)



# 広報（プログラムの制作、配布）

## ■プログラムの制作、配布

開催内容を掲載したプログラム（二ツ折A4判）を制作、インフォメーションカウンター等で配布した。

(裏面)

(表紙)

(中面)

# 広報（記者発表）


## ■ 記者発表

国土政策局及び国土地理院の連名により、記者発表を行った。

日時：11月18日14時（同時配布）

配布先：国土交通記者会、国土交通省建設専門紙記者会、国土交通省交通運輸記者会  
及び筑波研究学園都市記者会

### 記者発表資料



国土交通省  
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

Press Release

1. 国土交通記者会
2. 国土交通省建設専門紙記者会
3. 国土交通省交通運輸記者会
4. 筑波研究学園都市記者会

令和元年11月18日（月）14時同時配付

令和元年 11月 18日  
国土政策局  
国土地理院

### G空間×みちびき＝輝ける令和の未来へ ～G空間 EXPO2019 開催～

11月28日から11月30日までの間、「G空間EXPO2019」を日本科学未来館で開催します。G空間情報<sup>®</sup>は、自動走行、i-Construction、スマート農業、ドローン物流などの基盤となる情報で、これらと「みちびき」の情報を融合させることで新産業・新サービスの創出が期待されています。  
※G空間情報（地理空間情報）とは、地図・衛星測位等から得られる「いつ・どこ」といった時間・位置情報です。

「G空間EXPO」は、今回が9回目の開催となり、今回のテーマを「G空間×みちびき＝輝ける令和の未来へ」として、G空間情報の活用推進及び普及啓発を目的に産学官による最新の地理空間情報技術に関する展示・講演等を行います。関連する業界の方ばかりでなく地理のお好きな一般の方も大勢ご来場いただいております。昨年度も1万人以上のご来場がありました。無人航空機（UAV）のフライトシミュレータの体験企画など多彩なプログラムを用意しています。

■ 開催概要

名称：G空間 EXPO2019 ～地理空間情報科学で未来をつくる～  
会期：令和元年11月28日（木）～30日（土）10：00～17：00  
会場：日本科学未来館【東京都江東区青海2-3-6】  
主催：G空間 EXPO 運営協議会  
入場料：無料（※日本科学未来館の常設展示は有料）  
URL：<http://www.g-expo.jp/>

■ 開会式

日時：令和元年11月28日（木）10：00～10：20  
会場：G空間 EXPO2019 会場 メインステージ（日本科学未来館）  
出席者：国土交通省 青木一彦副大臣 ほか 産・学・官の代表者  
※取材・カメラ撮り可能です。事前予約は不要ですので、当日、直接受付に申し出てください。

添付資料 「G空間 EXPO2019」における国土交通省主催イベントの概要について  
参考資料1 「G空間 EXPO2019」チラシ  
2 昨年度（G空間 EXPO2018）の様子

(問合せ先)

〒100-8918 東京都千代田区霞が関2-1-2 国土交通省 (TEL 03-5253-8111代) 国土政策局国土情報課 企画専門官 竹澤 孝明 (内線 29-833) 専門調査官 板倉 勝孝 (内線 29-863) TEL 03-5253-8353(直通) FAX 03-5253-1569	〒305-0811 茨城県つくば市北郷1番 国土地理院企画部 地理空間情報企画室 室長 大塚 孝治 TEL 029-864-6938 (直通) 室長補佐 津久井 誠 TEL 029-864-6257 (直通) FAX 029-864-1658
--	--



# 広報（記者発表）

## 添付資料 『G空間EXPO2019』における国土交通省主催イベントの概要について

【添付資料】

**『G空間 EXPO2019』における  
国土交通省主催イベントの概要について**

「G空間 EXPO2019」は、令和元年11月28日（木）・29日（金）・30日（土）に、日本科学未来館で開催されます。国土交通省（国土政策局、国土地理院）は、以下のとおり各種イベントを実施します。

「G空間 EXPO2019」で実施するイベントは全て入場無料となっておりますが、一部、事前登録が必要なイベントがありますので、ご注意ください（日本科学未来館の常設展示は有料）。

**1. G空間 EXPO メッセージゾーン**

国土政策局・国土地理院も構成員であるG空間 EXPO 運営協議会の主催により、当イベントの導入部として、G空間 EXPO で見てほしいこと、感じてほしいことをお伝えいたします。

**(1) 展示**

導入部として、そもそもG空間社会とは何かという問いに応えられるよう、身近な場面をとりあげてG空間情報の説明をするパネルを展示します。

**(2) メインステージプログラム**

G空間 EXPO2019 オープニングセレモニーを皮切りに、G空間情報に関する独創的なアイデア・最先端の技術・サービス等を紹介するイベント等、3日間を通して多彩なプログラムを予定しています。

**2. Geo アクティビティコンテスト**

地理空間情報の利活用に関する様々な「取組」「アイデア」「サービス」等を対象として公募・選考されたプレゼンターによる展示・プレゼンテーションを実施。優秀者は表彰します。

今年新たに「防災減災賞」や「地理教育賞」を設けました。近年、被害が甚大化している自然災害への対応に地理空間情報を活用している事例や、高等学校における「地理総合」必修化により注目される地理教育への取組などについて紹介します。

**【展示】**  
日時：11月28日（木）～30日（土）10:00～17:00  
会場：1階企画展示ゾーン

**【プレゼンテーション】**  
日時：11月29日（金）10:30～15:10  
会場：1階メインステージ

**【表彰式】**  
日時：11月30日（土）10:30～12:00  
会場：1階メインステージ

**【問合せ先】** 国土地理院企画部地理空間情報企画室 Tel: 029-964-5959（直通）

**3. 地理空間情報フォーラム国土交通省関連ブース**

1階企画展示ゾーンで実施される「地理空間情報フォーラム」に、国土交通省から以下のとおり出展します。

**【開催日時】** 11月28日（木）～30日（土）10:00～17:00

**(1) 国土政策局関連展示**

展示ブース 13 では、国土政策局の地理空間情報普及の取組として「高精度測位社会プロジェクト」を紹介する展示を行います。同プロジェクトでは、屋内電子地図や屋内測位環境等の空間情報インフラの整備・活用実証を地じたサービスの見える化、空間情報インフラの効率的・効果的な整備手法や継続的に維持・更新する体制の検討を行っているところなどです。また、民間事業者等による多様なサービスの創出に向けた働きづくりを推進しています。

**【会場】** 1階企画展示ゾーン ブース 13  
**【問合せ先】** 国土政策局国土情報課 Tel: 03-5253-8353（直通）

**(2) 国土地理院関連展示**

展示ブース 16 では、高精度測位を支える国土地理院の取組をパネルや映像、構想展示で紹介いたします。

誰もが信頼性の高い高精度測位サービスを安定的に利用するには、何が必要なのか？そのために何を行っているのか？日本の位置情報インフラを整備してきた国土地理院の取組をわかりやすく紹介いたします。

**【会場】** 1階企画展示ゾーン ブース 16  
**【問合せ先】** 国土地理院企画部地理空間情報企画室 Tel: 029-964-6257（直通）

**4. 講演・シンポジウム**

**第11回地理院地図パートナーネットワーク会議**

国土地理院の提供するウェブ地図「地理院地図」や「地理院タイ尔」について情報共有・意見交換を行うプログラムです。

午前の部では、初心者向けに地理院地図の使い方について説明・質疑応答を行います。午後の部では、地理院地図の利用者や関係者向けに、最近の技術情報、システムやアプリケーションの開発状況について紹介します。

会議の様子はインターネットで全国にライブ配信します。その他、会議の詳細は、ウェブサイト（<https://maps.gsi.go.jp/pn/>）をご覧ください。

**【開催日時】** 11月28日（木）10:30～16:50（休憩 12:00～13:00）  
**【会場】** 7階コンファレンスルーム土庫  
**【問合せ先】** 国土地理院地理空間情報部情報普及課 Tel: 029-964-6643（直通）

参考資料1 フライヤー(両面)



参考資料2 写真：前年度の開催の様子



# 広報（インフォメーションカウンター）

## ■ インフォメーションカウンター

開催期間中、会場内にインフォメーションカウンターを設け、プログラム等の配布、問合せ対応等を行った。

- 来場者問合せ対応
- プログラム＋アンケート用紙配布
- 地理空間情報フォーラム パンフレット配布
- Geoアクティビティコンテスト パンフレット等配布
- 講演・シンポジウム タイムスケジュール掲示

※アンケート用紙の配布から回収まで：

- ・アンケート用紙をプログラムにはさみ込み、来場者に配布、回答協力呼びかけ
- ・記入コーナー、回収ボックスを出入口付近に設置



## 付録1 アンケート結果

---

# アンケート結果（来場者）

## 〈調査概要〉

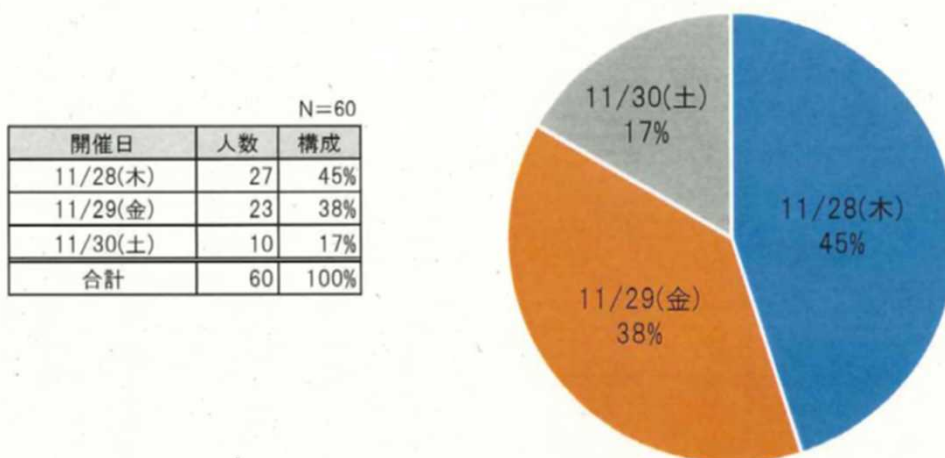
調査目的	来場者の動向調査及び次回開催への改善策につなげる
調査対象	児童生徒から社会人まで幅広い層
調査期間	令和元年11月28日(木)、29日(金)、30日(土) / 10時～17時 / 3日間
調査方法	インフォメーション及び会場入口(2箇所)にてスタッフによる配布・出口回収
有効回答数	60名

## 〈アンケート回収数〉

	11月28日(木)	11月29日(金)	11月30日(土)	期間合計
アンケート回収数	27	23	10	60枚

## アンケート調査結果①

Q1 参加された日付を教えてください(複数回答可)





# アンケート結果（来場者）

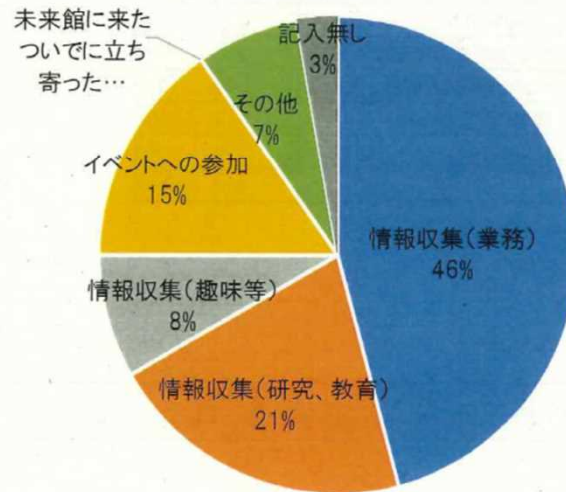
Q2 どのような目的で参加されたのか教えてください。

N=72 ※複数回答

目的	人数	構成
情報収集(業務)	33	46%
情報収集(研究、教育)	15	21%
情報収集(趣味等)	6	8%
イベントへの参加	11	15%
未来館に来たついでに立ち寄った	0	0%
その他	5	7%
記入無し	2	3%
合計	72	100%

■自由記述

イベントへの参加(自由記述)
・G空間Cユーザー会
・ソクジョの会
・ユーザ会
・測量船「海洋」
その他(自由記述)
・進路選びの際、参考にするため
・授業
・個人情報と地図の関わりあい
・研修
・就活の情報収集



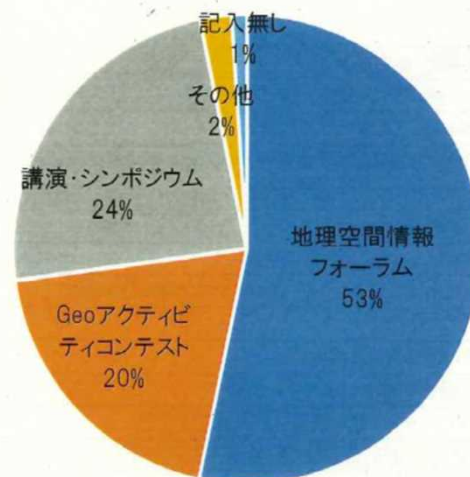
Q3 どのイベントをご覧になりましたか？(複数回答可)

N=92 ※複数回答

参加イベント	人数	構成
地理空間情報フォーラム	49	53%
Geoアクティビティコンテスト	18	20%
講演・シンポジウム	22	24%
その他	2	2%
記入無し	1	1%
合計	92	100%

■自由記述

講演・シンポジウム(自由記述)
・みちびき講演会
・SPACシンポジウム
・SPACシンポジウム
・写測・リモコン学会
・ユーザ会
・世界に貢献する日本のWEB地図技術、自治体GIS×地域活動
・自治体GIS
その他(自由記述)
・授業

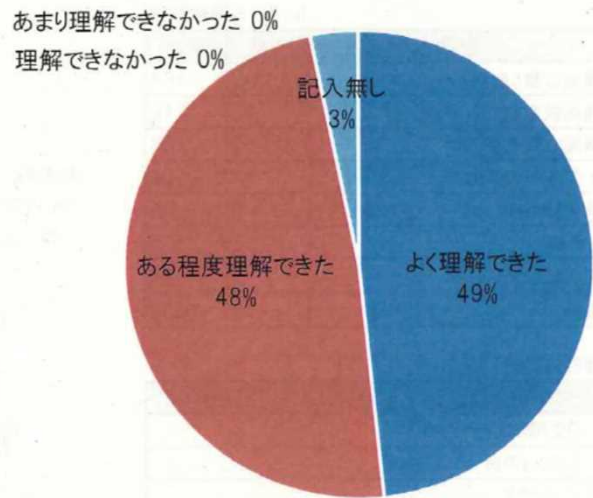


# アンケート結果（来場者）

## Q4 内容は理解できましたか？

N=60

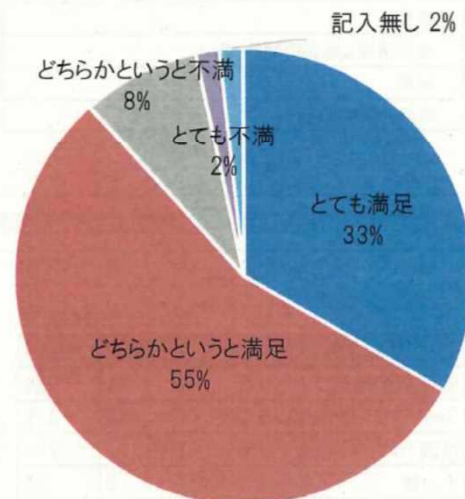
	人数	構成
よく理解できた	29	48%
ある程度理解できた	29	48%
あまり理解できなかった	0	0%
理解できなかった	0	0%
記入無し	2	3%
合計	60	100%



## Q5 G空間EXPO2019は全体を通していかがでしたか？

N=60

	人数	構成
とても満足	20	33%
どちらかという満足	33	55%
どちらかという不満	5	8%
とても不満	1	2%
記入無し	1	2%
合計	60	100%



### ■自由記述

<b>とても満足(自由記述)</b>
・今年も興味ある分野の最新情報に触れることができて良かった
・最新のGIS、業界として積極的に取り組んでいる活動の話が聞けて良かった
<b>どちらかという満足(自由記述)</b>
・現代の技術という意味では満足である
・少し小規模になっているような・海保もなかったし
・年々寂しくなっていく感じが残念
・以前のような測量システム展寄りの方が興味あります
・VRがすごかった
・業務上「GIS」を取得中
・やや規模が縮小した
・色々なブースで説明を聞いたり、体験ができた
<b>どちらかという不満(自由記述)</b>
・出展が少なかった
・出展社が少ない
・昨年と比較して、活気がない
<b>とても不満(自由記述)</b>
・5~6回来ているが中身に変化がない

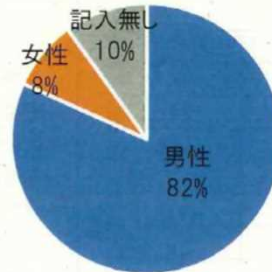
# アンケート結果（来場者）

Q6 あなたの性別・年齢について教えてください。

(1)性別比率

N=60

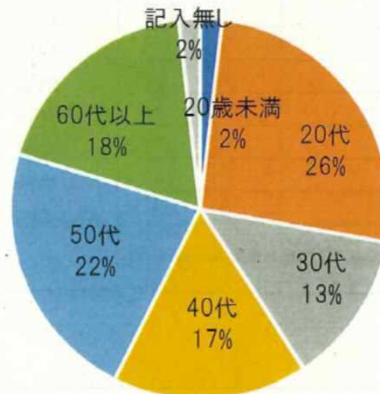
性別	人数	構成
男性	49	82%
女性	5	8%
記入無し	6	10%
合計	60	100%



(2)年齢比率

N=54

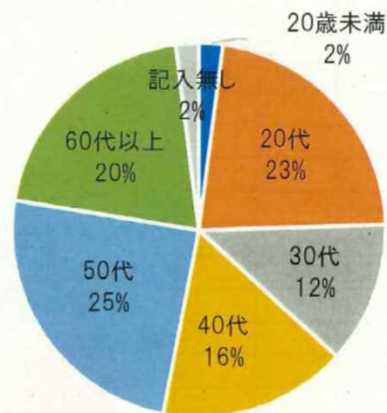
年齢	人数	構成
20歳未満	1	2%
20代	14	26%
30代	7	13%
40代	9	17%
50代	12	22%
60代以上	10	19%
記入無し	1	2%
合計	54	100%



(2)男性年齢別比率

N=49

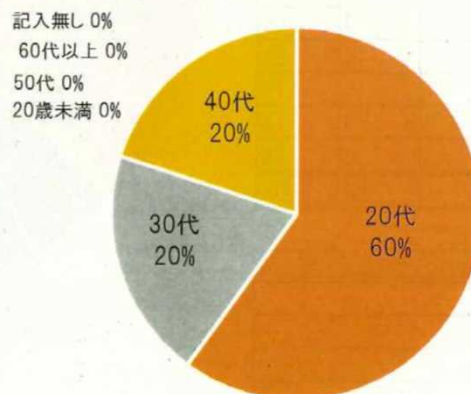
男性:年齢	人数	構成
20歳未満	1	2%
20代	11	22%
30代	6	12%
40代	8	16%
50代	12	24%
60代以上	10	20%
記入無し	1	2%
合計	49	100%



(3)女性年齢別比率

N=5

女性:年齢	人数	構成
20歳未満	0	0%
20代	3	60%
30代	1	20%
40代	1	20%
50代	0	0%
60代以上	0	0%
記入無し	0	0%
合計	5	100%



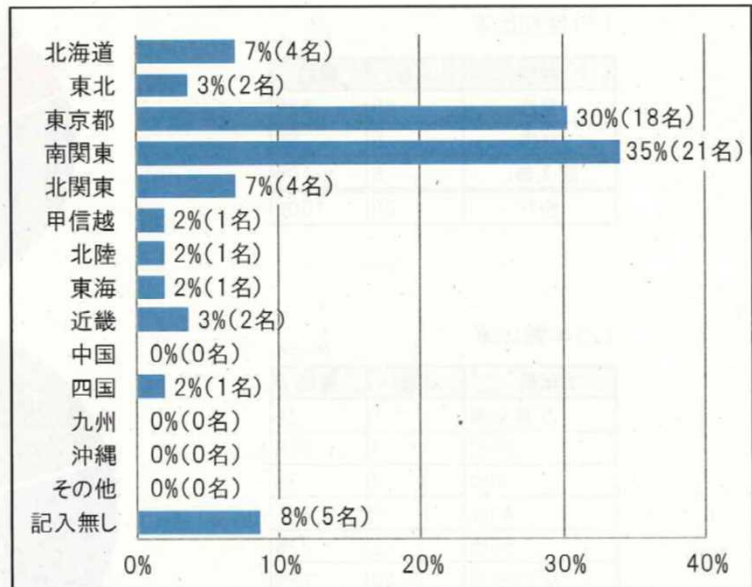


# アンケート結果（来場者）

Q7 どちらからいらっしゃいましたか？

N=60

	人数	構成
北海道	4	7%
東北	2	3%
東京都	18	30%
南関東(埼玉、千葉、神奈川)	21	35%
北関東(茨城、栃木、群馬)	4	7%
甲信越	1	2%
北陸	1	2%
東海	1	2%
近畿	2	3%
中国	0	0%
四国	1	2%
九州	0	0%
沖縄	0	0%
その他	0	0%
記入無し	5	8%
合計	60	100%



Q8 ご職業をおしえてください(もっとも近いものをお選びください)

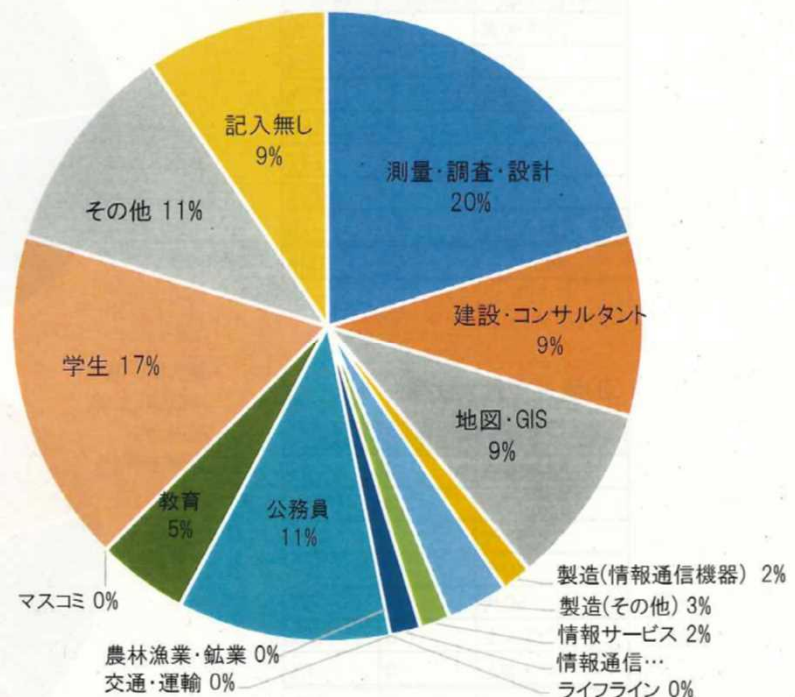
N=64 ※複数回答

	人数	構成
測量・調査・設計	13	20%
建設・コンサルタント	6	9%
地図・GIS	6	9%
製造(情報通信機器)	1	2%
製造(その他)	2	3%
情報サービス	1	2%
情報通信	1	2%
農林漁業・鉱業	0	0%
交通・運輸	0	0%
ライフライン	0	0%
公務員	7	11%
教育	3	5%
マスコミ	0	0%
学生	11	17%
その他	7	11%
記入無し	6	9%
合計	64	100%

■自由記述

その他(自由記述)

- ・研究
- ・土地家屋調査士
- ・OB
- ・会社員





# アンケート結果（来場者）

Q9 G空間EXPO2019の開催を何でお知りになりましたか？（複数回答可）

N=69 ※複数回答

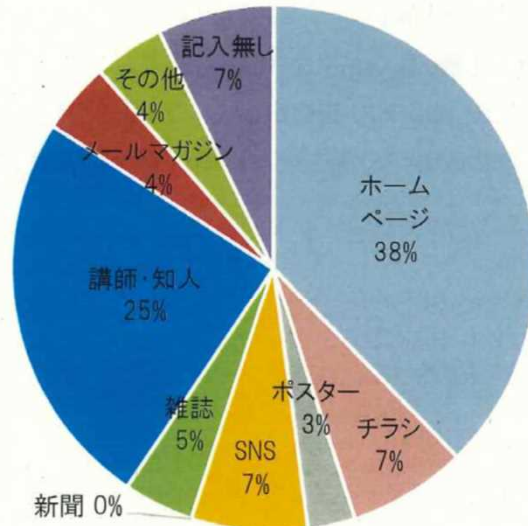
	人数	構成
ホームページ	26	38%
チラシ	5	7%
ポスター	2	3%
SNS	5	7%
新聞	0	0%
雑誌	3	4%
講師・知人	17	25%
メールマガジン	3	4%
その他	3	4%
記入無し	5	7%
合計	69	100%

■自由記述

その他(自由記述)

・上司より聞いた

・出展者(大牟田市)



Q10 今後、G空間EXPOに期待する内容は何でしょうか？

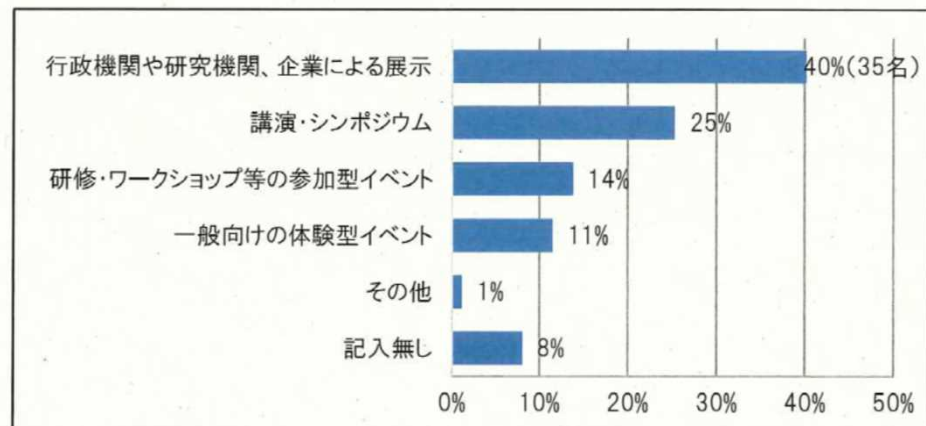
N=87 ※複数回答

	人数	構成
行政機関や研究機関、企業による展示	35	40%
講演・シンポジウム	22	25%
研修・ワークショップ等の参加型イベント	12	14%
一般向けの体験型イベント	10	11%
その他	1	1%
記入無し	7	8%
合計	87	100%

■自由記述

その他(自由記述)

・個人情報保護に関する地図・GIS画像などの取り扱い



# アンケート結果（来場者）

---

その他、ご意見やご提案などございましたらご記入ください(自由回答欄)

- ・HPが見にくくて分からない。
- ・未来に向けた出展、展示が少ないと思えた。
- ・GEOアクティビティコンテスト面白かった。「Oが5つつけられたら良かった」。
- ・最初はブースに入りづらい感じがしていたが、色々な体験や説明を聞いていると楽しく感じるようになった。

# アンケート結果（出展者）

---

## G 空間 EXPO2019 地理情報空間フォーラム出展者アンケート結果

1.回答者数 7名 \*全出展者数(24名)の29.2%。

内訳 法人3(研究開発1, データサービス1, 調査研究1)  
株式会社4(測量1, 測量機器2, ソフトウェア1)

2.出展に関する総合的な満足度

どちらかといえば満足……5名

どちらかといえば不満……2名

3.(1)開催地について

良い……3名

普通……3名

悪い……1名

(2)施設について

良い……5名

普通……1名

悪い……1名

4.会場全体の雰囲気について

良い……1名

普通……4名

悪い……2名

5.来場者数について

どちらかといえば多かった ……1名

どちらかといえば少なかった……4名

少なかった ……2名

6.来場者ターゲットについて

どちらかといえば合っていた ……3名

どちらかといえば合っていなかった……4名

7.(1)希望開催時期

夏:7~8月 ……1名

秋:9~11月 ……6名

(2)希望開催日

平日のみ ……6名

平日+土日休日(平日重視) ……1名

# アンケート結果（出展者）

---

## (3)希望開催期間

- 2日間 ……4名
- 2日間, 3日間 ……1名
- 3日間 ……2名

## (コメント)

- ・開催時期に関してはここ数年と同様に秋開催が良いとは思いますが、開催日については平日開催を強く希望したいと思います。また、来場者数から考えると2日間開催でもよいのではと思います。（回答：「2日間」）
- ・開催日を平日にするのか休日を含むのかに関しては、ターゲットとの兼ね合いで決める必要がありますが、休日が入ると昨今の働き方改革の影響で、人員確保に大変さが増すと思っています。（回答：「3日間」）

## 8.来年の出展

- 出展を検討したい……5名
- わからない ……2名

## (コメント)

- ・出展者数や来場者数を考えると日本科学未来館と同様の規模でよいと思うが、交通の便を考えると、日本科学未来館やビッグサイトで開催するより、都内(人工島を除く)又は横浜辺りまでのエリアが良いかと思えます。（回答：「わからない」）
- ・来場者が少なくビジネス商談も少なかったため、集客が見込める公共機関の交通の便が良い会場を希望いたします。（回答：「わからない」）
- ・次回の会場予定地については、集客の関係で非常に不安あり、全体方針の早期確定、出展者の早期確保が必須と考えます（これについては測量協会殿だけで進められないのは承知しています）。ビジネス関係の集客は来年の階催場所的に難しいかなと思っています。過去にも議論が出ているようですが、いっそのこと、地方都市開催のほうが盛り上がるのでは？（これについては再来年以降の検討ですね）（回答：「出展を検討したい」）

## 9.運営全般について（自由記述）

- ・もう少し大型の出展が増えるといいなあと思います。
- ・運営面等につきましては全く問題なく準備から終了までスムーズに行えることができましたので、次回以降も維持していただければよいかと思えます。自治体や学校関係の小規模ブース？は活気があって非常に良いと思いました。ベンチャー企業向けの小規模ブースなどの募集していくことでより活気が生まれるのではないかと感じました。
- ・企業出展が少なかった印象でした。多くの方に来場頂けるように幅広い企業に出展頂けるように働き掛け頂ければと思いました。
- ・来年度は規模縮小前提でプランを練る必要があると思っています。Geoコンはそれなりに盛り上がっていたようなので、その辺をベースに全体コンセプトを練り直しては如何でしょうか。



## 付録 2 開催実績

---

# 開催実績

名称	会期	会場	主催	来場者数
1 G空間EXPO	2010(H22) 9/19日～22火	パシフィコ横浜 (神奈川県横浜市) [10,000㎡]	G空間EXPO 実行委員会	36,819人
2 G空間EXPO2012	2012(H24) 6/21木～23土	パシフィコ横浜 (神奈川県横浜市) [6,700㎡]	G空間EXPO 実行委員会	18,143人
3 G空間EXPO2013	2013(H25) 11/14木～16土	日本科学未来館 (東京都江東区) [約2,000㎡]※1	G空間EXPO2013 運営協議会	17,584人
4 G空間EXPO2014	2014(H26) 11/13木～15土	日本科学未来館 (東京都江東区)	G空間EXPO2014 運営協議会	20,311人
5 G空間EXPO2015	2015(H27) 11/26木～28土	日本科学未来館 (東京都江東区)	G空間EXPO2015 運営協議会	18,856人
G空間EXPO2016	2016(H28) 11/24木～26土	日本科学未来館 (東京都江東区)	G空間EXPO2016 運営協議会	19,138人
6 G空間EXPO2016 in仙台	2016(H28) 10/5水	仙台国際センター (仙台市青葉区)		128人
G空間EXPO 2016 in大阪	2016(H28) 10/24月～25火	ATCホール (大阪市住之江区)		150人
G空間EXPO2017	2017(H29) 10/12木～14土	日本科学未来館 (東京都江東区)	G空間EXPO2017 運営協議会	20,450人
7 北陸G空間フォーラム in新潟	2017(H29) 9/20水	朱鷺メッセ (新潟市中央区)		94人
九州G空間フォーラム in鹿児島	2017(H29) 11/8水～9木	かごしま県民交流 センター(鹿児島市)		205人
G空間EXPO2018	2018(H30) 11/15木～17土	日本科学未来館 (東京都江東区)	G空間EXPO2018 運営協議会	10,623人 ※2
8 北海道G空間フォーラム in札幌	2018(H30) 7/18水～22土	かでの2・7ほか (札幌市中央区)		836人
中国G空間フォーラム in広島	2018(H30) 9/13木～14金	JMSアステールプラザ (広島市中区)		350人
G空間EXPO2019	2019(R元) 11/28木～30土	日本科学未来館 (東京都江東区)	G空間EXPO 運営協議会	15,513人
9 中部地理空間フォーラム in岐阜	2019(R元) 10/11金 ※3	ぎふメディアコスモス ほか(岐阜市)		143人
四国地理空間フォーラム in松山	2019(R元) 11/8金～9土	松山市総合コミュニ ティセンター(松山市)		175人

※1 日本科学未来館における使用面積はこの翌年以降も同じ。

※2 G空間 EXPO の来場者数カウント方法をこの年から精緻化した。

※3 台風接近のため、予定されていた第2日(10/12 土)の開催を中止した。

## G空間EXPO2019開催報告書

令和2年3月31日

G空間EXPO運営協議会事務局

(国土交通省国土政策局国土情報課内)

